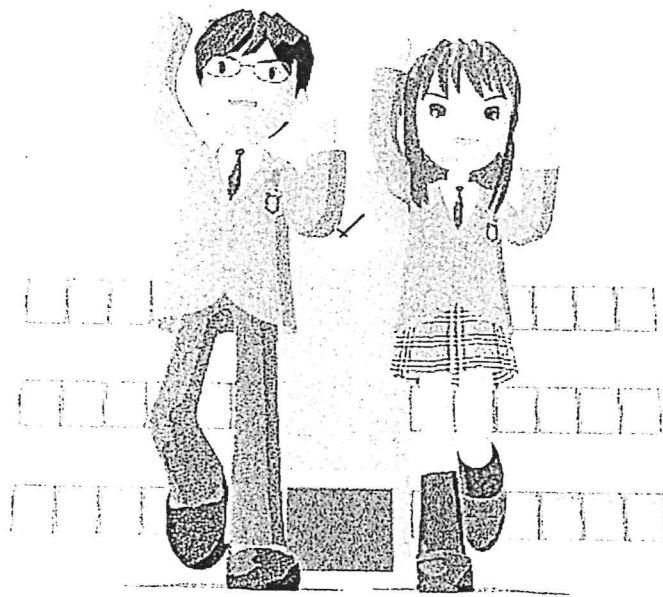


令和7年度

シラバス



福山高校 普通科1年

教育課程	-----	1
国語	-----	2
地理歴史	-----	6
数学	-----	10
理科	-----	12
保健体育	-----	14
芸術	-----	18
外国語(英語)	-----	24
情報	-----	26

入 学 年 度				令 和 7 年 度				備 考
学 年			1	2	3	計		
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	国語表現, 古典探 究履修者は,2,3年 次継続履修
		言語文化	◎2	2			2	
		論理国語	4		2	2	4	
		文学国語	4		2	2	4	
		国語表現	4		★2	★2	★4	
		古典探究	4		★2	★2	★4	
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2	地理探究, 日本史 探究履修者は,2,3 年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3	■5	
		歴史総合	◎2	2			2	
		日本史探究	3		■2	■3	■5	
	公 民	公共	◎2		2		2	3年次の数学Cは, 2年次に 理数探究基礎を履修したも のが選択履修 <

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「現代の国語」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を書くことができる。								
教 材		使用教科書 三省堂 新現代の国語 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し 入門	・自身の基礎力の確認と定着を図る。 ・気持ちそれぞれ伝わるように言い方を考える。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	わかり合うために	・情報を読み解き、要約し、まとめる			○	○	○	
		6月	確かな情報を伝えるために	・文章を把握し、資料を加え考えをまとめ、発表する		1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月	情報を生かすために	・文章を把握し、調べ、報告書を書く。		2 学 期 中 間	○	○	○	
	2 学 期	9月	よりよい読み手になるために	・文章の中から、筆者の主張をつかむ。 場に応じて伝えるために		2 学 期 期 末	○	○	○	
		10月	説得力を高めるために	・ブクトークを行うことで、説得力を高めるためにどうすればよいか考える。			○	○	○	
		11月		・パネルディスカッションの例を参考にし、話し合いを行う。			○	○	○	
		12月	考えを共有していくために	伝えることの意味や方法を理解し、話す・聞くことについて考える。			○	○	○	
	3 学 期	1月	よりよい書き手になるために	・テーマに基づき文章を書き、批評し合う。		学 年 末	○	○	○	
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)漢字の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めるように努めましょう (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	現代の国語
-----	----	-------	-------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「言語文化」		単 位 数			知 識	思 考 ・ 判 断	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 第一学習社 高等学校 言語文化 副 教 材 尚文出版 常用漢字ダブルクリア								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	古文入門『児のそら寝』ほか	古文の文章になれるとともに、現代に通じる話の面白さを知る。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	漢文入門 歌物語『伊勢物語』	漢文のきまりを学び、訓読になれる。 話の中で和歌が果たしている役割を押さえる。		1 学 期 期 末	○	○	○	
		6月	故事成語「漁父之利」ほか	現代使われている言葉が、漢文由来することを知る			○	○	○	
		7月	近現代の詩歌(俳句など)	詩歌のリズムに触れ、俳句を作成する。		2 学 期 中 間	○	○	○	
	2 学 期	9月	随筆『枕草子』『徒然草』 史伝「完璧」ほか	自由に記述された随筆を読んで、ものの見方考え方を理解する。 文章の内容や作品に現れるものの見方 や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。		2 学 期 期 末	○	○	○	
		10月	日記『土佐日記』	内容や展開を的確に捉え、筆者のものの 見方や考え方を読み取る。			○	○	○	
		11月	漢詩(唐詩・日本の漢詩)	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、中国と日本の文化との関係に理解を深める。			○	○	○	
		12月	軍記物語『平家物語』	作品に現れるものの見方考え方を捉え、内容を理解するとともに、歴史的な文体について理解し、そのリズムを読み味わう。		学 年 末	○	○	○	
	3 学 期	1月	論語	孔子のものの見方考え方を理解する。			○	○	○	
		2月	古典の詩歌	和歌の鑑賞の仕方を理解し、特徴を捉える。			○	○	○	
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)指示したノートの取り方を守り、しっかりとまとめましょう。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)しっかりと声を出して音読をしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		しっかりと、ノートを取りましょう。 古文・漢文は予習・復習が大切です。毎日の積み重ねを怠らないようにしましょう。								

教 科	国語	科 目 名	言語文化
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんとルールに則り写し、自分なりにまとめている。	板書事項をルールに則り写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	地理歴史		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	地理総合		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を培う。								
教 材		使用教科書：		第一学習社 帝国書院	高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる 標準高等地図					
		補助教材：		第一学習社 第一学習社	地理総合ノート コネクト地理2024					
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション		・オリエンテーション、国名クイズを実施		1 学 期 期 末	○		○
		5月	第1編 1章 地図や地理情報システム と現代世界		・位置の表し方、地図とGISの活用を理解 ・領土問題、交通、貿易などを理解する。			○	○	○
		6月	第2編 1章 生活・文化の多様性と 国際理解		・世界の生活を理解し、文化について資料読取を実践する。 ・世界の気候について理解する。			○	○	○
		7月			・世界の「衣」「食」「住」を理解する。			○	○	○
	2 学 期	9月			・産業の発展、情報産業などを理解する。 ・宗教、世界の文化などを理解する。		2 学 期 中 間	○	○	○
		10月						○	○	○
		11月	第2編 2章 地球的課題と国際協力		・持続可能な開発目標(SDGs)の理解する。 ・貧困問題、人口問題、食糧問題などを理解する。 ・資源、エネルギー、都市問題などを理解する。		2 学 期 期 末	○	○	○
		12月			・地球環境問題を理解する。 ・民族問題、紛争を理解する。			○	○	○
	3 学 期	1月	第3編 1章 自然環境と防災		・世界の大地形、自然災害、 日本の気候、災害への備えなどを理解する。		学 年 末	○	○	○
		2月	第3編 2章 生活圏の調査と 地域の展望		・地域調査の方法を理解する。 さらに、調査、成果発表などを行う。			○	○	○
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書、地図帳、コネクト地理総合、地理総合ノートは必ず持参すること。 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 ・地理総合ノートを使って授業を行います。 ・地理総合ノートは学期末に回収、点検します。チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能…ワークブック、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題、レポート (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・定期考査と別に、授業内で単元ごとの小テストを行います。								

教 科	地理歴史	科 目 名	地理総合	
-----	------	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査 小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査 小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見いだすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ、具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようとすることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表 プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等を行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	地理歴史 歴史総合	履修学年 単 位 数	1 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
学 習 の 目 標		世界の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や因果関係などを総合的に考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 現 判 断 ・ 表	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書「歴史総合」実教出版 補助教材「歴史総合 演習ノート」実教出版)							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1章 近代化への胎動 ・江戸時代の安定と動揺、ヨーロッパのアジア進出と争いの動きについて学ぶ。 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」			1 学 期 期 末	○	○	○
		5月	・国民国家を形成していく欧米の状況と、変容を迫られるアジア諸国の様子について学ぶ。				○	○	○
		6月	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 ・国民国家の成立と世界各地での民族的な抵抗の様子について学ぶ。 ・明治期における日本の政治的近代化への過程と国際関係について学ぶ。				○	○	○
		7月	第4章 帝国主義の時代 ・帝国主義諸国による世界分割の動きと、アフリカ・東アジア・太平洋地域に与えた影響について学ぶ。 ・日清・日露戦争を通じた、日本の国際的地位の動向について学ぶ。 ・産業革命による日本経済と社会の変容について学ぶ。				○	○	○
							○	○	○
							○	○	○
	2 学 期	9月	第5章 第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の展開と影響、大戦後の国際秩序の形成について学ぶ。 ・ワシントン体制のもと、米英と協調路線をとり、国内でも政党政治の時代を迎えた日本の動向について学ぶ ・アジア、東ヨーロッパなどの民族自決・民族運動の展開について学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○	○
		10月	・日本国内における社会運動の展開と普通選挙実現にむけた経過について学ぶ。 第6章 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌と各国の対応、ファシズムの時代への移行について学ぶ。 ・東アジアを緊張させた日本の満州侵略とアメリカとの対立、第二次世界大戦の勃発について学ぶ。 ・戦時下における日本国内の社会的・経済的状況について学ぶ。 ・日本の民主化、朝鮮の分断、アジアにおける米ソの対立について学ぶ。				○	○	○
		11月	・アメリカとの関係を強める道を選択していく日本の動向について学ぶ。				○	○	○
		12月					○	○	○
							○	○	○
							○	○	○
	3 学 期	1月	第7章 冷戦と脱植民地化 ・冷戦の深刻化と、植民地の独立や日本の主権回復に与えた影響について学ぶ。 ・日本の国際社会の復帰と高度経済成長について学ぶ。			学 年 末	○	○	○
		2月	第8章 多極化する世界 ・米ソ二大国主導から多極化し、国際秩序が変化していく過程について学ぶ。 ・現代世界の大きな課題である地域・民族紛争、国際的なテロ、発展途上国の貧困問題について学ぶ ・近年の東アジアにおける相互交流と相互理解の動きについて学ぶ				○	○	○
		3月					○	○	○
学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。							

教 科	地理歴史	科 目 名	歴史総合
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分かなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学Ⅰ		履修学年 単位数	1学年 5単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理原則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教材		使用教科書 新数学Ⅰ（東京書籍）								
学習の内容	1 学期	4月	数の計算	義務教育範囲の数学的な計算の技術について復習する。		中間 考 査	○		○	
		5月	数と式	・文字を使った式や、展開、因数分解といった文字を使った式の計算のルールについて学習する。			○	○	○	
		6月		・平方根や、分数の性質について学習する。		期 末 考 査	○		○	
				・1次方程式、1次不等式、2次方程式について、解き方を学習する。			○		○	
		7月	2次関数	・2次関数の性質や、グラフとの関係を学習する。		中 間 考 査	○	○	○	
	2 学期	9月		・2次関数の最大値・最小値について学習する。			○	○	○	
		10月		・2次関数のグラフを使った2次不等式の解法について学習する。			○	○	○	
		11月	三角比	・タンジェント、サイン、コサインの定義や、活用の仕方について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・三角比の面積の公式や、正弦定理、余弦定理を用いて、実際に様々な図形に活用する。		○		○	○	
		12月				学 年 末 考 査				
	3 学期	1月	データの分析	・データの特徴を把握し、整理してデータを読み解く手法について学習する。			○	○	○	
		2月	集合と論証	・集合を使った論理的な考え方を活用して、命題の証明について学習する。			○	○	○	
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		週に1回行う計算テストも評価の対象になるので、週末課題にもしっかりと取り組みましょう。								

教 科	地理歴史	科 目 名	歴史総合
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	1学年 5単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学 I		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理原則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学 I (東京書籍)								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	数の計算	義務教育範囲の数学的な計算の技術について復習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	数と式	・文字を使った式や、展開、因数分解といった文字を使った式の計算のルールについて学習する。				○	○	○
		6月		・平方根や、分数の性質について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・1次方程式、1次不等式、2次方程式について、解き方を学習する。				○		○
	7月	2次関数	・2次関数の性質や、グラフとの関係を学習する。				○	○	○	
	2 学 期	9月		・2次関数の最大値・最小値について学習する。			中 間 考 査	○	○	○
		10月		・2次関数のグラフを使った2次不等式の解法について学習する。				○	○	○
		11月	三角比	・タンジェント、サイン、コサインの定義や、活用の仕方について学習する。			期 末 考 査	○		○
		12月		・三角比の面積の公式や、正弦定理、余弦定理を用いて、実際に様々な図形に活用する。				○	○	○
	3 学 期	1月	データの分析	・データの特徴を把握し、整理してデータを読み解く手法について学習する。			学 年 末 考 査	○	○	○
		2月	集合と論証	・集合を使った論理的な考え方を活用して、命題の証明について学習する。				○	○	○
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週に1回行う計算テストも評価の対象になるので、週末課題にもしっかりと取り組みましょう。								

教 科	数学	科 目 名	数学 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解釈することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, それの答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	1 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「科学と人間生活」		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。								
教 材		使用教科書： 東京書籍 科学と人間生活 副 教 材： 東京書籍 ニューサポート科学と人間生活								
学 習 の 内 容	1 学期	4月	序章 科学技術の発展	・科学技術の進歩・発展について学習する			1 学期 期 末	○	○	○
		5月	生命の科学	・ヒトの視覚と光による影響について学習する (実験 錯視の体験)				○	○	○
		6月		・血糖濃度を調節するしくみについて学習する (実験 植物細胞の観察)				○	○	○
				・体を守る免疫のしくみについて学習する				○	○	○
				・遺伝子のはたらきについて学習する				○	○	○
		7月	物質の科学	・リサイクルについて学習する				○		○
	2 学期	9月		・金属の性質について学習する (実験 合金の作成) (実験 金属のイオン化傾向)			2 学期 中 間	○	○	○
		10月		・プラスチックの性質について学習する (実験 プラスチックの性質)				○	○	○
		11月	光や熱の科学	・光の性質について学習する (実験 光の反射・屈折・回折)				○	○	○
		12月		・光の色と見え方について学習する (実験 簡易分光器の観察)				○	○	○
	3 学期	1月		・電磁波とその利用例について学習する			学 年 末	○		
		2月	宇宙や地球の科学	・身近な自然景観の成り立ちについて学習する				○		○
3月			・自然災害と防災について学習する			○		○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	科学と人間生活
-----	-----	-------	---------

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	1 学年 3 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学期	4 月	オリエンテーション ・授業の心得、体育館施設利用の説明 集団行動 ・集団行動の基本的動作確認 第2ラジオ体操 ・第2ラジオ体操の動きの確認			実 施 し ま せ ん		○		
		5 月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、 健康の保持増進や体力の向上を目指す学習				○	○	○	
		6 月								
			球技Ⅰ・武道 選択 ・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体 力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で 仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多 様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習				○	○	○	
		7 月								
			体育理論 ・スポーツの発祥と発展(①～③)				○	○	○	
	2 学期	9 月	球技Ⅱ・武道 選択 ・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体 力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦 に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決し たりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用 いた攻防を展開する学習				○	○	○	
		10 月								
		11 月	陸上競技 ・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜び を味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解すると ともに、長距離走の技能を身につける				○	○	○	
		12 月								
		体育理論 ・スポーツの発祥と発展(④～⑥)			○		○	○		
	3 学期	1 月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、 健康の保持増進や体力の向上を目指す学習						○	○
2 月		球技Ⅲ ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観 察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間 と連携しゲームを展開する学習			○	○	○			
3 月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体育
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	1 学年 1 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	保健		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉現代高等保健体育ノート								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション		・国民の健康課題や健康の考え方についての学習	一 学 期 期 末		○	○	○
			健康の考え方(1)							
		5月	生活習慣病などの予防と回復					○	○	○
		6月						○	○	○
	2 学 期	7月	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		・喫煙と飲酒における健康課題についての学習 ・薬物乱用における健康課題についての学習	二 学 期 期 末		○	○	○
		9月	精神疾患の予防と回復		・精神疾患の特徴についての学習 ・精神疾患における健康課題についての学習			○	○	○
		10月	現代の感染症とその予防		・感染症における健康課題についての学習 ・性感染症・エイズにおける健康課題についての学習			○	○	○
		11月								
	3 学 期	12月	健康の考え方		・健康に関する意思決定・行動選択についての学習 ・健康に関する健康づくりについての学習	三 学 期 期 末		○	○	○
		1月	安全な社会づくり		・事故の現状と発生要因についての学習 ・安全な社会の形成や交通事故防止等についての学習			○	○	○
		2月								
		3月	応急手当		・応急手当の意義とその基本についての学習 ・日常的な応急手当や心肺蘇生法についての学習			○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。 ・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をしてもらい、取組状況を確認します。								

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解している。	現代社会に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
	安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解している。	安全な社会生活に関する各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題発見、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、危険予測・危険回避したり、傷害の悪化を防止したり、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す	ノート 授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心をもたない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	芸術 音楽Ⅰ	履修学年 単 位 数	1学年 2単位	考 査 範 囲 冊	評価の観点			
							知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					実 施 し ま せ ん			
教 材		使用教科書＜音楽之友社＞ON!Ⅰ 副教材＜啓隆社＞ MUSIC NOTE								
学習の内容	1 学 期	4月	高校音楽の扉を開けて イメージをもって歌おう! ・ 校歌により親しみ、全員で斉唱する喜びを体験するとともに、表現を工夫しながら多様な表現形態による歌唱を体験する。 楽典Ⅰ ・ 音楽の基本的な知識を理解する。音名を理解できるようになる。			実 施 し ま せ ん	○	○	○	
		5～6月	諸外国の曲を歌おう ・ 諸外国の歌曲と日本語の曲との違いを理解し、歌曲がもつ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などとかかわらせて、イメージをもって歌う。				○	○	○	
		7月	中世・ルネサンス～バロック時代の音楽 ・ 中世・ルネサンス期～バロック時代の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。 創作(1) 変奏をしてみよう ・ メロディーの雰囲気をもとに変化させたいかイメージしながら、そのための方法を工夫して変奏をする。				○	○	○	
2 学 期	9～10月	ギターを弾こう ・ ギターの音色や奏法の特徴を生かし、曲想にあった音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏す 楽典2 ・ 音楽の基本的な知識を理解する。リズムを理解できるようになる。			○		○	○		
	11～12月	打楽器を演奏しよう ・ 打楽器(特にラテン・パーカッション)の基本的な知識・奏法を理解し、曲想やリズムに応じた音楽表現を工夫し、イメージをもって演奏する。 古典派の音楽 ・ 古典派の音楽について、声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞し、楽曲の文化的・歴史的背景について理解を深める。			○		○	○		
3 学 期	3 学 期	1～3月	舞台芸術の世界 ・ オペラ、ミュージカル、歌舞伎などの舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。 世界の音楽 ・ 日本や諸外国の民謡の旋律や、声・楽器の音色の特徴、楽曲の文化的・歴史的背景に関心をもち、理解を深める。 創作(2) 旋律をつくってみよう ・ 音階の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫して、自己のイメージにあった音楽をつくる。				○	○	○	
							○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 教科書とMUSIC NOTE(5月ごろ配布)を必ず持ってきましょう。 (2) 歌唱・器楽・創作・鑑賞の4分野について幅広く学びます。 (3) 鑑賞の際は、「感じたこと」「気づいたこと」「考えたこと」を記入します。 (4) 表現(歌唱・器楽・創作)の際は、楽器の扱い等丁寧にしましょう。 (5) 芸術は表現の教科です。「できるか」ではなく「やろうとしているか」が大事です。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業・学習課題への取組、確認テスト・実技テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業・学習課題への取組、実技テスト・確認テスト・レポート等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業・学習課題への取組、レポート、授業中の発言、実技テスト・確認テスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		芸術の学習において、その根本にあるのは「美」に対する探究心です。それを主体的に動かすためには、何よりも「美」を感じる、そして感じようとする姿勢を持つことが必要になります。まずは、様々な音楽に耳を傾けてみましょう。それから受けた感動を、自分なりに表現してみましょう。そこから芸術の学習は、始まります。と同時に、自分を表現する基本的な技術を身に付けるために、ある程度繰り返しの練習が必要です。自分の現在の力に応じて、個々の目標を設定し、その目標を達成できるように努力しましょう。								

教 科	芸 術	科 目 名	音楽 I
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	MUSIC NOTEの学習	MUSIC NOTE 確認テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	授業の内容	実技テスト 確認テスト レポート	授業の内容を理解し表現できた	授業の内容をおおむね理解し表現できた	全く理解・表現できなかった
思考・判断・表現	到達目標	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	表現の授業 (歌唱・器楽・創作)	確認テスト 実技テスト 発表	諸要素の働きを感受し、イメージをもって具体的に表現を創意工夫できた	諸要素の働きを感受し、イメージをもって表現を創意工夫できた	イメージをもって表現することができなかった
	鑑賞の授業	レポート 発表	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら深く味わって鑑賞できた	諸要素の働きを感受し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞できた	よさや美しさを自ら味わって鑑賞できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	芸術		履修学年	1学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	美術Ⅰ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		(1)表現の活動では、主題生成の能力、創造的に構想する能力、表現しながらさらに構想を確かめ練り直す能力、材料や用具の特性を生かし創意工夫して表す技能などを育成する。 (2)鑑賞の活動では、美術作品や文化財等に映し出された美や創造の素晴らしさ、人々の生活や願いなどを感じ取るとともに、生活を心豊かにする美術の働きや美術文化を理解する能力などを育成する。					実施しません	○	○	○
教 材		使 用 教 科 書 高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）						○	○	○
学 習 の 内 容	1 学 期	オリエンテーション	・高校美術の意義、学習内容の心構えについて			○		○	○	
		鉛筆デッサン	・鉛筆の削り方、使い方、明暗、陰影などの表し方を身につける			○		○	○	
		人物画	・写真を元に描くフトリアリズムの作品を参考に鉛筆を用いて描き、モノトーンの表現を幅広く知る			○		○	○	
		鑑賞	・作者の視点に着目して、絵画を魅力的にしているものは何かを考え、表現の意図や工夫を読み取りながら鑑賞し、表現につなげる			○	○	○		
	2 学 期	静物画	・身近なものを見つめ直し、良さや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練り、配置や構図を工夫して表現する ・アクリル絵具やキャンバスの特徴を知り、表現につなげる			○	○	○		
		鑑賞	・美術館の役割や楽しみ方について学び、文化祭での展示方法へ活かせるよう、作品展示の準備をする			○	○	○		
	3 学 期	デザイン	・デザインの世界の幅広さや役割を理解し、デザインとは何か、デザインするとき大切なことは何かを考えながら鑑賞し、表現につなげる ・色彩、文字、美の秩序などについて学び、季節を平面構成で表現する			○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 作品の提出 (2) ワークシート、スケッチブックの提出 (3) 画材の適切な使い方を理解し、安全に丁寧に使用する (4) 作品の鑑賞活動に積極的に質問や感想を発表する (5) 集中して作品を制作する								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(授業態度・作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・作品等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	芸術	科 目 名	美術 I
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	画材やモチーフの特徴を理解し、制作に活かすことができた	画材やモチーフの特徴を理解することができた	全く理解できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック ワークシート 活動の様子	たくさんのアイデアを出し、十分に構想を練ることができた	いくつかアイデアを出し、構想を練ることができた	アイデアを出せず、構想を練ることができなかった
	鑑賞	ワークシート 発表 活動の様子	造形的なよさや美しさ、作者の心情や工夫について考え、十分に感じ方を深めることができた	造形的な良さや美しさ、作者の心情や工夫について考え、感じ方を深めることができた	全く考えることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に美術の幅広い創造活動及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実技	作品 スケッチブック	作品に対して疑問や課題を見つけ、解決することができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができた	作品に対して疑問や課題を見つけることができなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	集中して時間いっぱい作品制作に取り組むことができた	集中して作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	芸術		履修学年	1年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	書道Ⅰ		単 位 数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		小・中学校国語科書写の学習を基盤とし、書道の幅広い学習活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。書に親しむ活動を通して完成を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための能力を伸ばす。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすとともに、書の伝統と文化について理解を深める。									
教 材		書道Ⅰ（教育出版）									
学 習 の 内 容	1 学 期	書の世界へようこそ		書の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。				実 施 し ま せ ん	○	○	○
		硬筆の学習		ボールペン等の書き方について習得します。					○	○	○
		漢字の学習		書の学習を始めるにあたり、書体の変遷や宅本についての理解を図ります。					○	○	○
		楷書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
		行書の学習		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
	2 学 期	篆書、隸書、草書		各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関りを捉え、臨書活動を通して意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。					○	○	○
仮名の学習		我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を味わいその過程や仮名の種類、字源について理解していきます。				○	○	○			
料紙を作ってみよう		仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深めます。				○	○	○			
	3 学 期	漢字仮名まじりの書の学習		これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名まじりの書の制作を身につけます。				○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 清書作品の提出 (2) 途中経過の作品(添削)提出 (3) ワークシートの提出 (4) 作品制作に粘り強く取り組みましょう									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(作品・ワークシート・小テスト等) (2) 思考・判断・表現(作品・ワークシート・小テスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(作品・授業態度等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄											

教 科	芸 術	科 目 名	書 道 I
-----	-----	-------	-------

知識・技能	到達目標	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
思考・判断・表現	到達目標	書のよさや美しさを感じ意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (清書)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し表現できなかった
	授業内容	ワークシート 小テスト	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	鑑 賞	ワークシート	書のよさや美しさを感じ捉えることができる	書のよさや美しさを感じ捉えることがおおむねできた	全く捉えることができなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	実 技	提出作品 (添削)	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、しっかり添削できた	字形の特徴と用筆・運筆を理解し、添削できた	添削しなかった
	授業に取り組む姿勢	活動の様子	最後まで作品制作に粘り強く取り組むことができた	作品制作に取り組むことができた	作品制作に取り組むことができなかった

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	外国語(英語)	履修学年	1学年 5単位	考 査 範 囲	評価の観点			
科目名		英語コミュニケーションⅠ	単位数				知 識	思 考 力	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。								
教材		使用教科書＜開隆堂＞Amity English CommunicationⅠ 副教材＜開隆堂＞ Amity English CommunicationⅠワークブック 副教材＜旺文社＞英単語ターゲットⅠ200【改訂版】					回	能	現	度
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	学び直し ブロック体、文・動詞・前置詞・短縮形、文型、英語のルール be動詞(現在)・肯定文・疑問文・否定文・疑問詞 学び直し 一般動詞(現在)・肯定文・疑問文・否定文・助動詞				1 学 期 中 間 考 査	○		
		5月	学び直し be動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文・一般動詞(過去)・肯定文・疑問文・否定文 GET READY①② 日常生活の中で身近にある英語/和製英語 GET READY③月、曜日、日付、アルファベット GET READY④辞書の使い方、品詞の役割 Lesson1 The Beautiful Scenery (be動詞/一般動詞の現在形) ・お気に入りの場所について紹介する。訪れたい場所について話し合う。					○	○	○
		6月	Lesson2 My best friend (be動詞/一般動詞の過去形) ・大切にしている人を紹介する。登場人物の気持ちについて話し合う。					○	○	○
		7月	Lesson 3 Love for Dance (進行形/助動詞) ・絵や写真から思ったことを表現する。ダンスの力について話し合う。					○	○	○
		9月	Lesson 4 Endangered Species (不定詞) ・好きな動物について紹介する。絶滅危惧種を救うために何ができるかを話し合う。					○	○	○
		10月	Lesson 5 The History of Chocolate (動名詞) ・大切な人に贈りたいと思う贈り物について説明する。チョコレートの歴史について話し合う。					○	○	○
	2 学 期	11月	Lesson 6 Our School (比較) ・自身の学校の特徴について紹介する。高校生活でしてみたいことについて話し合う。				2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
		12月	Lesson 7 Serendipity (現在完了) ・どんなセレンディピティがあるか調べ、発表する。身近にあるセレンディピティについて話し合う。				○	○	○	
		1月	Lesson 8 Sapeurs (受動態) ・自分の宝物について紹介する。サブールの人々の考え方について話し合う。				学 年 末 考 査	○	○	○
		2月	Lesson 9 Special Makeup Effects (現在分詞/過去分詞) ・好きな映画やテレビ番組について紹介する。世界で活躍するカズ・ヒロさんの生き方について話し合う。					○	○	○
		3月	Lesson 10 Clear Water (関係代名詞) ・自分の生活を振り返り、水分の摂り方について説明する。小田兼利さんの生き方について話し合う。 COMMUNICATE +① 店で外国人客に対応するとき(対話練習) COMMUNICATE +② 町で外国人に道案内するとき(聞き取り練習・対話) Reading tupera tupera (関係副詞/仮定法) ・新進気鋭の絵本作家ツベラさんについての英文を読み、作品に触れ、その世界観やメッセージについて自ら考える。					○	○	○
								○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等	(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。									
評価方法	(1) 知識・技能(授業:小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業:ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業:ノート・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題提出物) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備考欄										

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーション I	
-----	---------	-------	---------------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	課題の内容を正しく英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容を工夫して表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、内容を工夫して、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり、表現ができています。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表プレゼンテーション	内容を工夫して、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえようという質問したりして、内容を工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期限内に提出ができ、内容も完全に記せている。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表プレゼンテーション	内容を工夫して、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるように、発表内容を工夫して詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

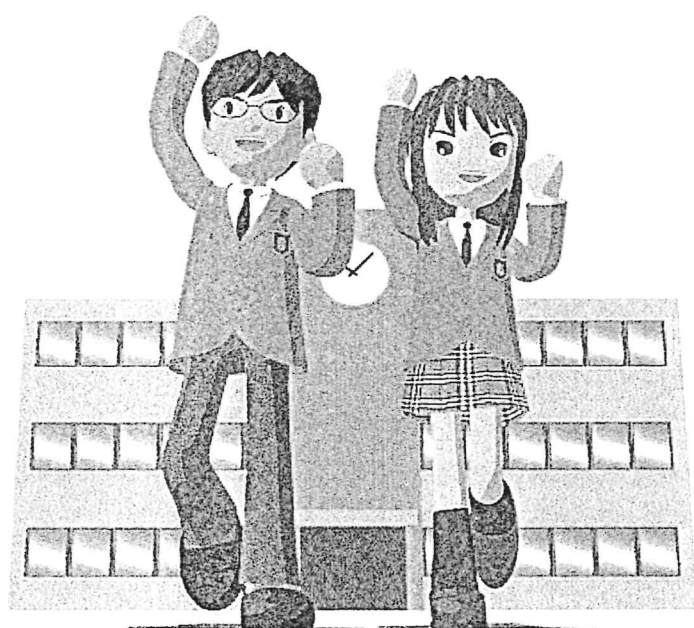
鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	情報 「情報Ⅰ」	履修学年 単位数	1 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。							
教 材		使 用 教 科 書： 東京書籍 新編情報Ⅰ 副 教 材： 東京書籍 新編情報Ⅰ 資料ノート							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション ・学習目標とシラバスを理解する。 ・実習用コンピュータやタブレットの使い方を理解する。 1章情報で問題を解決する ・情報やメディアの特性を理解できる。		1 学 期 末	○		○	
			・問題を発見・解決するための一連の流れを理解できる。			○	○	○	
		5月	・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解できる。 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性について理解する。 ・情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。			○	○	○	
			・文書処理ソフトウェアの基本的な操作を学習する。			○	○	○	
		6月	2章情報を伝える ・情報デザインの考え方や方法を理解し、表現する技能を身につける。			○	○	○	
			7月 1章情報で問題を解決する ・情報技術による社会・生活の変化が理解できる。 2章情報を伝える ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、科学的に理解する。			○	○	○	
	2 学 期	9月	・表計算ソフトウェアの基本的な操作を学習する。		2 学 期 末	○	○	○	
		10月	4章データを活用する ・データを蓄積、管理、提供する方法について学習する。 ・データベースの役割や活用について学習する。 ・目的に合わせたデータの利用方法を学習する。			○	○	○	
			・プレゼンテーションソフトウェアを使用してスライドを作成し、発表する。			○	○	○	
		11月	2章情報を伝える ・アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する。			○	○	○	
		12月	4章データを活用する ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素について学習する。			○		○	
			学年末			○	○	○	
	3 学 期	1月	・プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。 ・コンピュータの仕組みや特徴について理解し、コンピュータの演算の仕組みについて学習する。			○	○	○	
		2月	・アルゴリズムの表現方法やプログラムの作り方について学習する。			○	○	○	
		3月	・モデル化やシミュレーションについて学習する。			○	○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の目的を理解し、疑問に思ったことはメモを取ったり、質問したりしましょう。 (2) 授業には、意欲を持って積極的に参加しましょう。 (3) 発表等、自分の考えを述べるできるようになりましょう。また、聞く態度も身につけましょう。 (4) 説明事項や板書は、必ずワークシートに記入しましょう。 (5) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(小テストや定期考査、ワークシートの記述、作品等) (2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシートの記述、発表、作品の制作や表現等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(振り返りシートの記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	情 報	科 目 名	「情報Ⅰ」	
-----	-----	-------	-------	--

知識・技能	到達目標	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	理解できなかった
	知識の概念化	・ワークシート記述 ・定期考査	学んだ知識を活用ながら、自分なりの言葉で説明することができている	学んだ知識をもとに、内容を説明することができる	説明することができなかった。
	情報技術を活用する技能の習得	・作品制作	技能の習得に必要な知識を主体的に身に付け、作品制作に活用している	技能の習得に必要な知識を与えられて身に付け、作品制作に活用している	作品制作に活用できていない
思考・判断・表現	到達目標	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	複数の情報を結び付きの視点から捉える	・定期考査 ・ワークシートの記述	学習内容について具体的に記述があり、学んだことが理由とともに示されている	学習内容やその感想が記載されている	学習の内容についての記述がある
	情報技術を適切かつ効果的に活用する	・作品の制作や表現	大変分かりやすく、内容を表現できている	ややわかりやすく、内容を表現できている	全くわかりやすくない用を表現できていない
	発表姿勢	視線 声量 スピード	堂々と聴衆を見ながら明朗な声とスピードで発表できている	時々聴衆を見ながら発表し発表できた。	ほとんど聴衆を見ずに発表していた
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題解決型の学習	・ワークシートの記述	課題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために、見通しを持って粘り強く取り組むことができている。学習内容について具体的に記述があり、学んだことが理由とともに示されている	課題を自分のこととして受け止め、よりよく帰結するために取り組もうとしている。学習内容やその感想が記載されている	課題を自分のこととして受け止め、よりよく解決するために取り組むことができない
	学習の調整	・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	感想部分に十分な記述があり、次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった
	学習態度	・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている	発問に対して意欲的に考え、発言をしている	発問に対して考え、自分の意見を持とうとしない
		・教師による行動観察	各活動に対して積極的に参加し、分からないところがあれば質問、または調べたりしながら理解につなげようとしている	授業中の各活動に参加し、理解につなげようとしている	授業中の各活動への取り組みが物足りない。理解しようという姿勢が乏しい

令和7年度

シラバス



福山高校 普通科2年

国語		2
地理歴史		10
公民		14
数学		16
理科		20
保健体育		26
外国語(英語)		30
家庭		34
理数		36

入 学 年 度				令 和 6 年 度				備 考
学 年				1	2	3	計	
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	国語表現、古典探 究履修者は、2,3年 次継続履修
		言語文化	◎2	2			2	
		論理国語	4		2	2	4	
		文学国語	4		2	2	4	
		国語表現	4		★2	★2	★4	
		古典探究	4		★2	★2	★4	
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2	地理探究、日本史 探究履修者は、2,3 年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3	■5	
		歴史総合	◎2	2			2	
		日本史探究	3		■2	■3	■5	
	公 民	公共	◎2		2		2	
		政治・経済	2			2	2	
	数 学	数学Ⅰ	◎3	5			5	3年次の数学Cは、2年次に 理数探究基礎を履修したも のが選択履修
		数学Ⅱ	4		2	2	4	
		数学A	2		2		2	
		数学B	2			2	2	
		数学C	2			★2	★2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2	3年次の生物は、2年 次に生物基礎を履修 したものが履修
		物理基礎	○2		▲2		▲2	
		化学基礎	○2		2		2	
		化学	4			△4	△4	
		生物基礎	○2		▲2		▲2	
		生物	4			△4	△4	
	保健体育	体育	◎7～8	3	2	3	8	
		保健	◎2	1	1		2	
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2	
		美術Ⅰ	○2	□2			□2	
		書道Ⅰ	○2	□2			□2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	5			5	
		英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4	
		論理・表現Ⅰ	2		3		3	
		論理・表現Ⅱ	2			3	3	
		エッセイライティングⅠ	2～8		★2	★2	★4	
	家 庭	家庭総合	◎4		2	2	4	エッセイライティングⅠ履 修者は、2,3年次継 続履修
	情 報	情報Ⅰ	◎2	2			2	
	理 数	理数探究基礎	1		★2		★2	3年次の理数探究は、2年次 に理数探究基礎を履修した ものが選択履修
		理数探究	2～5			★2	★2	
	科目単位数計				28	28	29	85
総探	福山みらい創業塾		◎3～6	2	2		4	
	キャリアプラン					1	1	
合 計				30	30	30	90	
特活	ホームルーム活動			1	1	1	3	
週当たり総時数				31	31	31	93	

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	国語 「論理国語」	履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を工場させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。 (4)実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。				団			
教 材		使 用 教 科 書 東京書籍 新編論理国語 副 教 材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア							
学習の内容	1 学 期	4月	広がる世界	・筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考えるとともに、論理的に考えることの意義を知る。		1 学 期 中 間	○	○	○
		5月				1 学 期 期 末	○	○	○
		6月	考える手がかり	・本文を論理的に読み取り、述べられていることに思いを巡らすとともに、考えを深める。			○	○	○
		7月				2 学 期 中 間	○	○	○
	2 学 期	9月	人間と知性	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。		2 学 期 期 末	○	○	○
		10月	現実の中で	・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、ものごとの本質について考える。			○	○	○
		11月				学 年 末	○	○	○
		12月	ものの見方	・文章に示された考え方を手がかりに、ものごとの捉え方について理解を深める。			○	○	○
3 学 期	1月	働くよろこび	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。			○	○	○	
	2月 3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大切です。 (2)漢字の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めるように努めましょう (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (3)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。							

教 科	国語	科 目 名	論理国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	国語		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「文学国語」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にする。					1 学 期 中 間	○	○	○
教 材		大修館書店 新編文学国語 副 教 材 尚文出版 ライトパーフェクト演習								
学習の内容	1 学 期	4月	明日をひらく	・筆者が大切だと考えていることをし、その考えと比較しながら自分の生き方について考えを深める。			2 学 期 中 間	○	○	○
		5月	小説を楽しむ	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。						
		6月	古典の世界	・話のおもしろさと教訓をとらえる。						
		7月	詩を味わう	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。						
	2 学 期	9月	名作を読む	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。			2 学 期 期 末	○	○	○
		10月	古典の世界2	・主人公の心情やその変化を読み取る。						
		11月	社会に生きる	・小説を読む楽しさを味わう。 ・話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。						
		12月	表現を味わう	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。						
	3 学 期	1月	古典の世界3	・作品に表れている作者の感性をとらえる。			学 年 末	○	○	○
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (3)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国 語	科 目 名	文学国語
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「国語表現」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。								
教 材		使用教科書 大修館書店 国語表現 副 教 材								
学習の内容	1 学 期	4月	言葉と出会う	・言葉というものを多角的に捉えることによって、言葉の持っている素晴らしさを改めて認識する。			1 学 期 中 間	○	○	○
		5月	伝える、伝え合う	・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。					○	○
		6月	小論文・レポート入門	・レポートの基本的な書き方を理解する。 ・客観的な根拠を集めて、説得力のあるレポートをまとめる。			1 学 期 期 末	○	○	○
		7月		・さまざまな種類のグラフの特徴を知り、その読み取り方を理解する。 ・資料から読み取ったことをふまえて、自分の意見を明確にして小論文を書く。				○	○	○
	2 学 期	9月	自己PRと面接	・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。			2 学 期 中 間		○	○
		10月		・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。					○	○
		11月	メディアを駆使する	・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。			2 学 期 期 末	○	○	○
		12月	会話・議論・発表	・司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。				○	○	○
	3 学 期	1月		・視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテーションをする。			学 年 末			
		2月								
3月		読書のひろば	・本の紹介やビブリオバトルを通して、改めて本の魅力を知って、主体的に読書活動になる。					○	○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)ワークシートにしっかりと取りくみましょう。 (3)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	国語表現
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
科目名		「古典探究」		単 位 数				知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との間わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					1 学 期 中 間 1 学 期 期 末 2 学 期 中 間 2 学 期 期 末 学 年 末	○	○	○
教 材		使用教科書 第一学習社 標準古典探究 副 教 材								
学習の内容	1 学 期	4月	古今著聞集	・平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、平中の色好みや端を発する滑稽話のおもしろさを味わう。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。		○		○	○	
		5月	故事・寓話	・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。		○		○	○	
		6月	方丈記	・和漢混用文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。		○		○	○	
		7月	三国志の世界	・史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。		○		○	○	
	2 学 期	9月	伊勢物語	・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・文語のきまりについて理解を深める。		○		○	○	
		10月	漢詩の鑑賞	・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して考えを広げる。 ・漢詩を鑑賞して、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。		○		○	○	
			日本の詩	・漢詩の特徴について理解を深める。		○		○	○	
		11月	沙石集	・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。		○		○	○	
	12月	不思議な世界	・小説という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。		○	○		○		
	3 学 期	1月	和歌	・わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の特色を理解し、黎明期の和歌を鑑賞する。 ・和歌という文章の種類や古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える。		○		○	○	
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。 (4)わからない単語は、自分でしっかりと調べましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	国語	科 目 名	古典探究
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	地理歴史		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	地理探究		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うことを目指す。								
教 材		使用教科書：	二宮書店 帝国書院	地理探究 標準高等地図			1 学 期 期 末 2 学 期 中 間 2 学 期 期 末 学 年 末			
		補助教材：	二宮書店	地理探究ワークブック						
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション	オリエンテーション						○
			第1編 第1章 自然環境	①地形を理解する。				○	○	○
		5月								
		6月		②気候と生態系を理解する。				○	○	○
				③世界各地の自然と生活を理解する。				○	○	○
	2 学 期	7月		④日本の自然環境と防災を理解する。				○	○	○
		9月		⑤地球環境問題を理解する。				○	○	○
		10月	第1編 第2章 資源と産業	①農林水産業を理解する。				○	○	○
		11月		②資源・エネルギーを理解する。				○	○	○
				③工業を理解する。				○	○	○
		12月		④第3次産業を理解する。				○	○	○
	3 学 期	1月	第1編 第3章 人・モノ・金のつながり	①交通・通信を理解する。				○	○	○
2月			②貿易・観光を理解する。			○	○	○		
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書、地図帳、地理探究ワークブックは必ず持参すること。は自宅学習用です。 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 ・地理探究ワークブックを使って授業を行います。 ・地理探究ワークブックは学期末に回収、点検します。チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能…地理探究ワークブック、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題 (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・定期考査と別に、授業内で単元ごとの小テストを行います。								

教 科	地理歴史	科 目 名	地理探究
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として系統地理的、地誌的に考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようと考えることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等も行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	地理歴史		履修学年	2 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	日本史探究		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		わが国の歴史の展開を、諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察理解し、歴史的思考力を同時に培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。								
教 材		使用教科書「日本史探究」東京書籍 補助教材 「新日本史要点ノート(標準編)」新日本史研究ノート(標準編)啓隆社 「新詳日本史」 浜島書店								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 先史・古代の日本と東アジア			1 学 期 中 間	○	○	○	
		第1章 先史時代の生活と文化 ・集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗の推移など社会の変化								
		5月	第2章 歴史資料と先史・古代の展望 ・集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、対外的な交など社会の変化を学ぶ。			1 学 期 期 末	○	○	○	
		6月	第3章 古代社会の形成と展開							
	7月	・大和～白鳳時代の政治体制の変化と、人々の生活の変化について学ぶ。 ・奈良時代～平安時代にかけての、貴族と庶民の日常生活について学ぶ。 ・律令政治の再建、藤原氏による摂関政治が始まったことを学ぶ。 ・地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学ぶ。			2 学 期 中 間	○	○	○		
	9月	第2編 中世の日本と世界								
	2 学 期	第1章 中世社会の成立 ・院政及び、武家政権としての平氏政権が成立したことを学ぶ。 ・地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○	○		
		第2章 歴史資料と中世の展望 ・歴史資料から当時の社会、国際関係について展望する。								
		10月	第3章 中世社会の展開 ・鎌倉幕府の滅亡後、室町幕府が成立した過程について学ぶ。 ・鎌倉幕府の成立と、幕府を中心とした武家社会が成立した過程について学ぶ。 ・庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になったことを学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○	○	
		11月	第3編 近世の日本と世界							
		第1章 近世社会の形成 ・大航海時代の中、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを学ぶ。 ・織田信長・豊臣秀吉による天下統一の過程を学ぶ。								
	3 学 期	12月	・世界の中で当時の日本がどのような位置づけであったかについて学ぶ。			学 年 末	○	○	○	
1月		第2章 歴史資料と近世の展望 ・江戸幕府の組織と大名統制など幕藩体制の特色について学ぶ。 ・鎖国政策による貿易統制と禁教のもとで交易が行われたことを学ぶ。 ・歴史資料から当時の社会、政治、文化について展望する。								
2月		第3章 近世社会の展開 ・17世紀中頃から、武断政治から文治政治に転換したことを学ぶ。 ・近世の身分と人々の暮らしについて学ぶ。								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※考査前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。								

教 科	地理歴史	科 目 名	日本史探究
-----	------	-------	-------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	公 民 公 共	履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点				
学習の目標		現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度		
教 材		教科書「高等学校 新公共」 第一学習社 補助教材『新公共ノート』 第一学習社									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ・青年期について理解し、自己のあり方や生き方について学ぶ。			1 学 期 中 間	○	○	○		
		5月	・社会に参画する自立した主体としてのあり方について学ぶ。				○	○	○		
		6月	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ・環境保護や生命倫理の観点から、人間としてのあり方を学ぶ。 ・選択・判断の手がかりとなる倫理的価値について学ぶ。				○	○	○		
		7月	第3章 公共的空間における基本的課題 ・人間の尊厳と平等、民主政治の基本原則について学ぶ。 ・法と人権について学ぶ。				○	○	○		
		2 学 期	9月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち ・日本国憲法の人権規定を学習し、さまざまな人権問題について学ぶ。			2 学 期 中 間	○	○	○	
			10月	・契約と消費者、国民としての司法参加の意義について学ぶ。				○	○	○	
			11月	第2章 政治的な主体となる私たち ・選挙の意義と政治参加について学ぶ。 ・日本の政治のしくみについて学習する。				○	○	○	
			12月	第3章 経済的な主体となる私たち ・現代の経済のしくみと日本経済のこれまでとこれからについて学ぶ。 ・市場経済のしくみと経済と環境、国民福祉との関連性について学ぶ。 ・金融の意義や役割について学ぶ。				○	○	○	
			3 学 期	1月	・国際分業と経済のグローバル化について学ぶ。			2 学 期 期 末	○	○	○
				2月	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私 ・環境問題、資源エネルギー問題、情報社会について学ぶ。 ・小論文の書き方を学び、実際に書いてみる。				○	○	○
	3月			・地球規模における国際社会のこれからの課題について学ぶ。			○		○	○	
							○		○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。								
	評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
	備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。								

教 科	公 民	科 目 名	公 共	
-----	-----	-------	-----	--

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題、ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	二学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学Ⅱ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学Ⅱ(東京書籍)								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	式の計算	・3次式の乗法公式と因数分解、二項定理、 分数式の四則演算について学習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	2次方程式	・複素数、複素数の計算、2次方程式の解、 解と係数の関係について学習する。				○	○	○
		6月	高次方程式	・多項式のわり算、因数定理、高次方程式に ついて学習する。			期 末 考 査	○	○	○
		7月	式と証明	・等式の証明、不等式の証明について学習する。				○	○	○
	2 学 期	9月	座標と直線の方程式	・直線上や平面上の点の座標、直線の方程式、 2直線の関係について学習する。			中 間 考 査	○	○	○
		10月								
		11月	円と方程式	・円の方程式や円と直線について学習する。			期 末 考 査	○		○
		12月	軌跡と領域	・軌跡や不等式の表す領域について学習する。				○	○	○
	3 学 期	1月	三角関数	・一般角、三角関数、加法定理、弧度法について学習する。			学 年 末 考 査	○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	数学	科 目 名	数学Ⅱ
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ, 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学A		履修学年 単位数	二学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教材		使用教科書 新数学A(東京書籍)								
学習の内容	1 学 期	4月	場合の数と確率	・部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合、集合の要素の個数について学習する			中 間 考 査	○		○
		5月		・個数の数え方、和の法則、積の法則について学習する。				○		○
				・順列や順列を利用して総数を求める方法について学習する。			期 末 考 査	○	○	○
		6月	確率	・組合せや組合せを利用して総数を求める方法について学習する。				○	○	○
		7月		・試行と事象、事象の確率について学び、基本的な確率を求める方法について学習する。				○		○
	2 学 期	9月		・独立な試行、反復試行の確率を求める方法について学習する。			中 間 考 査	○		○
				・条件付き確率、期待値について学習する。				○	○	○
		10月	平面図形の基礎	・直線と角、多角形の角について学習する。			期 末 考 査	○		○
				・三角形の合同や相似、作図について学習する。				○	○	○
		11月	三角形の性質	・三角形と比の性質や中点連結定理について学習する。 ・三角形の重心、内心、外心について学習する。 ・三角形の角の二等分線と線分の比について学習する。			学 年 末 考 査	○	○	○
	12月	円の性質・空間図形	・円の接線、円周角の定理、円に内接する四角形の性質について学習する。			○			○	
	3 学 期	1月		・接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円の位置関係、空間図形について学習する。				○	○	○
		2月	数学と人間関係	・数や位置を表し方や数のつくり方について学習する。				○	○	○
		3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	数 学	科 目 名	数学A
-----	-----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ, 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「物理基礎」		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。								
教 材		使用教科書： 東京書籍 新編物理基礎 副 教 材： 浜島書店 新ゼミナール物理基礎								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	直線運動の世界	・直線的な運動について学習する。			1 学 期 期 末	○	○	
			等速直線運動	速さが一定の直線運動				○		○
		5月	自由落下運動	地球の重力を受けた運動				○	○	○
		6月	力と運動の法則	・力と物体の質量、速度の変化の関係 (実験 力と質量及び運動の変化の関係)				○	○	○
				・運動の三法則について学習する				○	○	
		7月		一学期のまとめ				○	○	○
	2 学 期	9月	仕事とエネルギー	・仕事の意味と物体の持つエネルギーについて学習する			2 学 期 中 間	○	○	
		10月	力学的エネルギーの保存	・力学的エネルギーは保存されることを学習する (実験 力学的エネルギーの保存)				○	○	○
								○	○	○
		11月	いろいろな運動でなる力学的エネルギー	・力学的エネルギーが保存されない場合について学習する (実験 摩擦のある面での運動)			2 学 期 末	○	○	
								○	○	○
		12月	熱と物質、熱と仕事	・熱について学習する (実験 熱の移動)				○	○	○
3 学 期	1月	波動	・いろいろな波について学習する			学 年 末	○	○		
	2月	音波	・身近な音について学習する				○		○	
	3月	弦や気柱の振動	・弦や気柱の振動と音について学習する				○		○	
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	物理基礎
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	・物理的な現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、物理的な現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・物理的な現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・物理的な現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	理科 化学基礎		履修学年 単位数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教材		教科書 第一学習社 高等学校 新化学基礎 副教材 浜島書店 基本新ステップノート化学基礎								
学習の内容	1 学期	4月	化学と人間生活・人間生活の中の化学について金属やプラスチックを例に学習する				1 学期 期 末	☐	☐	☐
		5月	物質の分離・混合物から純物質を取り出す方法を学習する (実験 ろ過)					☐	☐	☐
		6月	原子・物質を構成する粒子について学習する (実験 硫黄の同素体)					☐	☐	☐
		7月	化学結合・イオン結合、共有結合、金属結合について学習する (実験 水溶液の電気伝導性)					☐	☐	☐
	2 学期	9月	結合のまとめ・イオン結晶、共有結合による結晶、金属結晶について学習する				2 学期 中 間	☐	☐	☐
			物質質量・小さい粒子の質量の扱い方を学習する ・物質質量と体積の関係について学習する					☐	☐	☐
		10月	化学反応式・化学反応の表し方や量的関係について学習する (実験 化学反応における量的関係)				2 学期 期 末	☐	☐	☐
		11月	酸と塩基・酸、塩基の性質について学習する ・pHについて学習する					☐	☐	☐
		12月	中和反応・酸と塩基を混ぜると、その性質が打ち消されることを学習する (実験 中和滴定)				3 学期 学 年 末	☐	☐	☐
		1月	酸化と還元・日常生活に利用されている酸化還元反応について学習する					☐	☐	☐
2月	電池電気分解・酸化還元反応の身近な例について学習する					☐	☐	☐		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	理 科	科 目 名	化学基礎	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現している	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	2学年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	生物基礎		単 位 数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
教 材		教 科 書 ： 東京書籍 新編生物基礎 副 教 材 ： 東京書籍 ニューサポート 新編 生物基礎								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	多様性と共通性 ・進化の面から、生物の多様性と共通性について学ぶ (実験 植物細胞の観察)			1 学 期 期 末	○	○	○	
		5月	エネルギー ・細胞とエネルギー、遺伝物質としてのDNAについて理解する。(実験 光合成色素の分離、酵素の働き)				○	○	○	
		6月	遺伝子 ・遺伝情報のメカニズムを知る。(実験 DNAの抽出) ・DNAの複製と分配について学ぶ				○	○	○	
		7月	タンパク質 ・タンパク質の構造について学ぶ ・タンパク質と遺伝情報について学ぶ				○	○	○	
	2 学 期	9月	体内環境 ・体内の恒常性を維持するタンパク質からなる酵素やホルモンの種類をその性質とともに学ぶ。			2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	神経 ・神経システムとその機構について学ぶ。 ・ホルモンのはたらきについて学ぶ。(実験 イリコの解剖)				○	○	○	
		11月	免疫 ・免疫システムとその機構について学ぶ。 ・ヒトの免疫について学ぶ。 ・免疫と疾患について学ぶ				○	○	○	
		12月	植生 ・植物の植生とその構造について学ぶ。 ・植物の極相について学ぶ。				○	○	○	
	3 学 期	1月	気候 ・バイオームの分布について学ぶ			3 学 期 学 年 末	○		○	
		2月	生態系 ・地球環境の保全について、生物学的な立場から学ぶ				○	○	○	
		3月	(実験 水生生物による河川の水質調査)				○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	生物基礎
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに分かりやすく図などで表現している	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	保健体育		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単位数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副教材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学習の内容	1 学 期	4月	オリエンテーション	・授業の心得、体育館施設利用の説明			実 施 し ま せ ん	○	○	○
			集団行動	・集団行動のおもな行動様式を身につける				○	○	○
		5月	第2ラジオ体操	・第2ラジオ体操の動きを身につける				○	○	○
			体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする				○	○	○
		6月	球技Ⅰ・武道選択	・ネット型（バレーボール・バドミントン）競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする				○	○	○
	2 学 期	7月		・柔道では、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする				○	○	○
			体育理論	・運動・スポーツの学び方（①～③）				○	○	○
		9月	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする				○	○	○
		10月	球技Ⅱ	・ゴール型（バスケットボール・サッカー）の競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする				○	○	○
		11月	陸上競技	・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける				○	○	○
	3 学 期	12月	体育理論	・運動・スポーツの学び方（④～⑥）				○	○	○
		1月	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする				○	○	○
		2月	球技Ⅲ	・ベースボール型、ゴール型の競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする				○	○	○
学習の方法		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。								
予習・復習 ノート等		・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評価方法		(1) 知識・技能（スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント） (2) 思考・判断・表現（学習課題、レポート、ノート、プリント） (3) 主体的に学習に取り組む態度（授業態度、課題提出、ノート、プリント） 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行う A（十分満足できる） B（おおむね満足できる） C（努力を要する）								
備考欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体 育	
-----	------	-------	-----	--

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発 表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 保健体育	履修学年 2学年	2学年 1単位	考 査 範 囲	評価の観点		
科目名 保健		保健	単 位 数	1単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。						
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉現代高等保健体育ノート						
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション		一 学 期 期 末	○	○	○
			生涯の各段階における健康	・各ライフステージにおける健康課題についての学習				
		5月		・思春期や性に関する健康課題についての学習				
			・結婚生活における健康課題についての学習					
	6月		・加齢における健康課題についての学習	○	○	○		
		労働と健康	・働くことと労働災害についての学習					
	7月		・職業生活における健康課題についての学習					
	2 学 期	9月	環境と健康	・環境汚染における健康課題①についての学習	二 学 期 期 末	○	○	○
				・環境汚染における健康課題②についての学習				
		10月		・環境の対策、産業廃棄物における健康課題についての学習				
			・ごみ処理や上下水道における健康課題についての学習					
11月			○	○	○			
	食品と健康	・食品の安全性についての学習						
12月		・食品衛生にかかわる活動についての学習						
3 学 期	1月	保健・医療制度及び地域の保健・医療健康	・保健サービス・医療サービスとその活用についての学習	三 学 期 期 末	○	○	○	
			・医薬品の制度とその活用についての学習					
	2月	さまざまな保健活動や社会的対策	・国内外の保健活動や社会的対策についての学習					
	3月	健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進の環境づくりについての学習					
学習の方法		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。						
予習・復習 ノート等		・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、考查、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)						
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をしてもらい、取組状況を確認します。						

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解している。	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解できていない。
	健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解している。	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	社会環境づくり自、健康管理、安全管理、労働に関わる社会資源などを適切に活用	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す	ノート 授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	外国語(英語) 英語コミュニケーションⅡ	履修学年 単位数	2学年 2単位	評価の観点						
						考 査 範 疇	知 識	思 考 判 断 技 能	主 体 的 に 学 習 に 取 組 む 態 度			
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、聞き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたことを読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたことを読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたことを読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				中間 考査 期末 考査 中間 考査 期末 考査 学年 末 考査	☐	☐	☐			
教材		使用教科書<開隆堂>Amity English Communication Ⅱ 副教材<開隆堂> Amity English Communication Ⅱ ワークブック 副教材<旺文社> 英単語ターゲット1200【改訂版】										
学習の内容	1 学 期	4月～5月	Lesson1 Okinawa 【沖縄の魅力】 ・be動詞、一般動詞、助動詞について学習する。・訪れたい場所について紹介する。・沖縄の魅力について話し合う。		中間 考査					☐	☐	☐
		5月～6月	Lesson2 The History of Japanese Food 【日本食の歴史】 ・be動詞、一般動詞、動名詞について学習する。・好きな食べ物について紹介する。・日本食の歴史と発展について話し合う。									
		6月～7月	Lesson 3 Volunteer Work 【高校生のボランティア活動】 ・不定詞、受動態について学習する。・参加してみたいボランティア活動について紹介する。・ボランティア活動について話し合う。									
	2 学 期	9月～10月	Lesson 4 Gacha-gacha 【ガチャガチャ】 ・SVOO, SVOCについて学習する。・ガチャガチャの中にあったら嬉しいと思うものについて説明する。・外国人に人気のある日本文化について話し合う。		中間 考査					☐	☐	☐
		10月～11月	Lesson 5 Interesting Aquariums 【おもしろ水族館】 ・形式主語、形式目的語について学習する。・水族館と動物園とでは、どちらが好きかについて説明する。・ユニークな水族館について話し合う。									
		12月	Lesson 6 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】 ・接続詞、前置詞について学習する。・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。・AIロボットと人間の関係について話し合う。									
	3 学 期	1月	Lesson 6 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】 ・接続詞、前置詞について学習する。・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。・AIロボットと人間の関係について話し合う。		学 年 末 考 査					☐	☐	☐
		2月	COMMUNICATE +① 買い物に誘うとき(対話) ・電話での会話をもとにしたメールの書き方について学習する。									
		3月	Lesson 1～Lesson 6 まとめ・復習									
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC／タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。				学年 末 考 査	☐	☐	☐			
評価方法		(1) 知識・技能(授業:小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業:ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業:ノート・ワークブック・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題提出物) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA,B,Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)										
備考欄												

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ
-----	---------	-------	--------------

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答でき ており、間違いの修正や書き直しもな されている。	一部空欄はあるが、ワークブック に記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができて いない。
	授業	パフォーマンス テスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手 に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で 情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切 に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確 に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を 概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現が できていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、 間違いの修正や書き直しもされ ている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せて いない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に 工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現がで きている。	自分の考えを記したり表現がで きていない。
	授業	英作文 レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊 かに記せている。	自分の考えを記したり、表現が できている。	自分の考えを記したり、表現が できていない。
	授業	発表 プレゼンテーショ ン	ある程度の長さで、自分の考え を深く、表現豊かに発表してい る。	ある程度の長さで、自分の考え を概ね発表できている。	自分の考えを発表できていな い。著しく短い表現・発表をして いる。
	授業	パフォーマンス テスト	相手に伝わるような表現に言い換え たり、理解してもらるようにしたりし て、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝 えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的 に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを 行おうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分な りに工夫を加えながら分かりや すく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に 工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現がで きている。	自分の考えを記したり表現がで きていない。
	授業	振り返りシ ート	単元の学習内容を振り返り、改 善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りがで きている。	単元の学習内容を振り返りがで きていない。
	提出物	課題 提出物	期日内に完全に提出ができ、内 容もきちんと記せている。	提出ができ、内容も概ね記され ている。	提出ができない。内容が記され ていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、 答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えら れている。	発表内容を自身のものと捉えら れていない。
	授業	行動観察	授業に根気強く真摯に臨もうと する意欲や姿勢が常に見られ る。	授業に根気強く真摯に臨もうと する意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む 姿勢や意欲を欠いている。
	授業	パフォーマンス テスト	聞き手を意識しながら、相手に分かる ように詳しく話そうとしている。さらに内 容を工夫している。	相手に伝わるように話そうとし ている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	外国語(英語)		履修学年	2学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	論理・表現Ⅰ		単位数			知 識	思 考 ・ 判 断	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・話すこと[やり取り]・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 ・話すこと[発表]・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 ・書くこと・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。								
教材		使用教科書<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅰ 副教材<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅰ ワークブック 副教材<旺文社>英単語ターゲットⅠ200【改訂版】								
学習の内容	1学期	4月	Pre-Lesson 1-4	身の回りにあるものの英語、いろいろな品詞、文の種類等を確認する。			1学期中間考査	○	○	○
			Lesson1	現在形の用法を学習し、自分や周りの人などを表現する。					○	○
		5月	Lesson2	過去形の用法を学習し、過去の事実や出来事について表現する。			1学期期末考査	○	○	○
			Action Part 1	友達の好きなものについて質問をしたり、発表したりする。				○	○	○
			Lesson3	現在進行形と過去進行形の用法を学習し、過去の事実や今していること、過去にしていたことについて表現する。			2学期中間考査	○	○	○
		6月	Lesson4	未来を表す表現(will,begoing to～)を学習し、自分のことやこれから起こることなどを表現する。				○	○	○
			Scene 1	ファーストフード店ででのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。			2学期期末考査	○	○	○
			Break Time 1	クロスワードパズルを用いて語彙を覚える。				○		○
		7月	Lesson5	助動詞(can,may)の用法を学習し、自分ができていることを表現したり、将来の自分に手紙を書く。			2学期中間考査	○	○	○
			Lesson6	助動詞(must,should)の用法を学習し、しなくてはならないこと、やらなければならないルールについて表現する。				○	○	○
	2学期	9月	Action Part2	富士山の登山について、しなければいけないこと、してはいけないことなどを発表する。			2学期中間考査	○	○	○
			Lesson7	現在完了形(完了、結果、経験)の用法を学習し、身の回りで起こったことや自分の経験などを表現する。				○	○	○
			Lesson8	現在完了形(継続)と現在完了進行形を学習し、身の回りで起こっていることや継続してきたことなどを表現する。			2学期期末考査	○	○	○
		10月	Step Up 1	Show & Tellやマインドマップを用いたプレゼンテーションの方法を学習する。				○	○	○
			Lesson9	受動態の用法を学習し身の回りの物や好きな本や作品などについて表現する。			2学期期末考査	○	○	○
			Lesson10	比較級と最上級の用法を学習し、身の回りのものや友達や家族について表現する。				○	○	○
			Lesson11	同等比較と倍数比較の用法を学習し、身の回りのものや訪れたい国について表現する。			○	○	○	
		11月	Action 3	オリジナルのクイズを作成し、出題する。			2学期期末考査		○	○
			Scene 2	道案内でのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。				○	○	○
			Break Time2	Tongue Twistersを用いて英語らしい発音を身につける。			○		○	
	3学期		Lesson12	動名詞の用法を学習し、自分や周りの人、好きなことについて表現する。			2学期期末考査	○	○	○
			Lesson13	to不定詞の名詞的用法とIt is～to・・・の用法を学習し、身の回りのものや感情などを表現する。				○	○	○
		12月	Step Up 2	パラグラフライティング用いた文章の書き方を学習する。			2学期期末考査	○	○	○
			Lesson14	to不定詞の副詞的用法と形容詞的用法を学習し、活動の目的や身の回りの物ものなどを表現する。				○	○	○
		1月	Lesson15	現在分詞と過去分詞の用法を学習し、人や身の回りのもの、友達や家族などについて表現する。			学年末考査	○	○	○
			Scece 3	おみやげを買う場面でのやりとりにおける重要な表現を学習し、ペアで対話をする。				○	○	○
			Break Time 3	英語でものを数える表現や単語を学習する。			○		○	
			Lesson16	関係代名詞(主格、目的格)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。			○	○	○	
2月		Action 4	お土産の説明の仕方を学習する。			○	○	○		
		Lesson17	関係代名詞(what)の用法を学習し、身の回りのものや興味のあることなどについて表現する。			○	○	○		
	Lesson18	関係代名詞(when,where)の用法を学習し、場所や時など詳しく表現する。			○	○	○			
3月	Step Up 3	ブレーションストームングの方法を学習し、ミニディベートをする。			学年末考査	○	○	○		
	Lesson19	仮定法過去の用法を学習し、願望や助言、行ってみたい時代になどについて表現する。				○	○	○		
	Lesson20	接続詞について学習し、理由や春休み行きたい場所などについて表現する。			○	○	○			
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・単語帳・PC／タブレット)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。								
評価方法		(1) 知識・技能(授業：小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト、定期考査等) (2) 思考・判断・表現(授業：ノート・ワークブック・英作文レポート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト、定期考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業：ノート・ワークブック・振り返りシート・発表プレゼンテーション・パフォーマンステスト・授業態度、課題提出物) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	外国語(英語)	科 目 名	論理・表現Ⅰ
-----	---------	-------	--------

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙,表現,文法,言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙,表現,文法,言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり),話すこと(発表),書くことによる実際のコミュニケーションにおいて,目的や場面,状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入,解答できており,間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが,ワークブックに記入,解答できている。	大部分が空欄か,提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ,相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面,状況などに応じて,日常的な話題や社会的な話題について,外国語で情報や考えなどの概要や要点,詳細,話し手や書き手の意図などを的確に理解したり,これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ,英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり,英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり,表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し,間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く,授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ,内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができている。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ,表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり,表現ができている。	自分の考えを記したり,表現ができていない。
	授業	発表 プレゼンテーション	ある程度の長さで,自分の考えを深く,表現豊かに発表している。	ある程度の長さで,自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり,理解してもらえるようにしたりして,工夫して話している。	聞き手を意識しながら,概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め,聞き手,読み手,話し手,書き手に配慮しながら,自主的,自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり,思考力,判断力,表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとしている。 ・学んだ内容を活用して,積極的に発表しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し,自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し,まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ,内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができている。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り,改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期日内に完全に提出ができ,内容もきちんと記せている。	提出ができ,内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え,答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	行動観察	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら,相手に分かるように詳しく話そうとしている。さらに内容を工夫している。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科・商業科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点 主体的に学習に取り組む態度		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	
学習の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					一 学 期 末 		

教 科	家庭	科 目 名	家庭総合	
-----	----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している	授業の内容をおおむね理解している	あまり理解していない
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している	学んだ知識や技能を用い記述している	学んだ知識や技能を用い記述できない
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定している	生活の中から問題を見だして課題を設定している	生活の中から問題を見だして課題を設定できていない
	解決方法を検討し、計画、立案する		生活課題について多角的に捉え、実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫できていない
	実践した結果を評価・改善する		問題点や改善策を具体的に記述し、評価・改善している	問題点や改善策を記述し、評価・改善している	問題点や改善策を記述し、評価・改善していない
	論理的に表現する		考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している	考察し表現している	考察し表現できていない
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする	・ワークシートの記述 ・自己評価、相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組んでいる	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組もうとしている	課題の解決に向けて見通しを持ち、粘り強く取り組むことができていない
	自らの学習を調整しようとする		学習内容について具体的に記述があり、次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり、振り返りができている	見通しが持てず、感想もあまり記述できなかった
	実践しようとする態度	・授業中の発言 ・教師による行動観察	発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている 学習に主体的に参加し、理解につなげている	発問に対して意欲的に考え、発言をしている 学習に参加し、理解につなげようとしている	発問に対して考え、自分の意見を持とうとしない 学習への取り組みが物足りず、理解しようという姿勢が乏しい

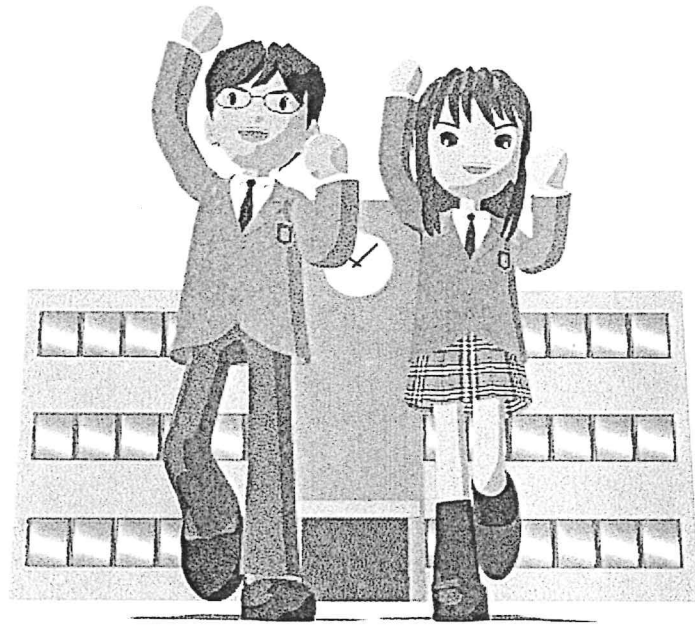
鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理数科		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	理数探究基礎		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		探究の意義や取り組み方, 研究倫理, 実験観察の基本的な技能を身につけさせる。また, 資料の読み取り方や効果的な結果の表示方法などを学び, 数学的な視点や理科学的な視点など多角的な視点から発想し, 探究する力を養う。								
教 材		使用教科書: 啓林館 理数探究基礎 未来に向かって 副 教 材: 啓林館 理数探究基礎 未来に向かって 学習ノート								
学 習 の 内 容	1 学期	4月	探究へのいざない 探究とは 探究の流れ	・科学的に探究するとはどのようなことかを学んでいきます。 ・簡単な実験をもとに, 探究の流れを理解します。			(期末 考 査)	○	○	○
		5月	課題の設定	・ブレインストーミングやKJ法などの思考ツールを活かして, 課題を設定します。 (教科書の探究の事例を参考にする)				○	○	○
		6月	課題の探究 仮説の設定 文献を調べる 探究の計画 探究を記録する	・自分たちが立てた課題の仮説をたてます。 ・先行研究を調べる方法や記録方法を学びます。 ・探究の計画を立てます。 ・探究を行い, 記録の仕方を学びます。				○	○	○
		～	探究の振り返り 結果の処理 再度, 探究を行う	・探究結果から仮説の修正を行います。 ・データを扱う際の注意事項について学びます。 ・表やグラフの書き方について学びます。 ・実験や調査結果の分析方法を学びます。 ・修正した仮説に基づいて再度, 探究を行います。				○	○	○
		12月	発表と報告書の作成 発表することの意義	・発表の種類について学びます。				○	○	○
		3 学期	～	研究発表	・ポスター発表について学びます。 ・口頭発表の仕方について学びます。 ・口頭発表で用いるスライドの作り方について学びます。			発 表	○	○
	2月		報告書の作成	・報告書の作成方法について学びます。			○		○	○
	3月		探究に取り組む姿勢	・探究に求められる倫理観について学び意見を交換します。			○		○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		① 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味・関心・疑問をもつこと。 ② 疑問に思ったことをメモをとる習慣をつけ, それを解決してみようという態度をもつこと。 ③ 学んだことを正確に記録する方法を身につけること。 ④ 学んだことを他者へ伝える方法を身につけること。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度, 探究ノート, グループワークへの参加, 学習課題・実験観察への取組, 考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度, 学習課題・実験観察への取組, 探究ノート, ポスター発表, 口頭発表, 考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度, 学習課題・実験観察への取組, 探究ノート, ポスター発表, 口頭発表等) 単元ごとに, 到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理数科	科 目 名	理数探究基礎
-----	-----	-------	--------

知識・技能	到達目標	・探究の意義や科学的に探究するために必要なことを具体的に示すことができる。 ・研究倫理について注意すべき点を具体的に示すことができる。研究倫理について注意すべき点を具体的に示すことができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題設定	レポート	探究に適した課題を設定し仮説を立てることができる	探究に適した課題とはどのようなものか理解している	探究の意義を理解していない
	探究の流れ	ノート レポート	条件制御や対照実験、精度を上げる工夫など、探究計画に必要な知識・技能を身につけている。	探究計画の立て方や実験・調査の方法を理解している。	探究計画の立て方に対する理解が不十分である。
	考察	レポート	データを評価し、その関係を分析するための方法を身につけている。	データを適切な方法で、表やグラフとして表す方法を身につけている。	データを記録している。
	参考を調べる	ノート レポート	文献ごとの利点と注意点を理解している	文献ごとの利点と注意点を理解しようとしている	全く理解しようとしなかった
思考・判断・表現	到達目標	・科学的に探究することの重要性を具体的に説明でき、事例について正しく判断できる。科学的に探究することの重要性を具体的に説明でき、事例について正しく判断できる。 ・研究倫理の重要性を具体的に説明することができ、事例について正しく判断できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題設定	レポート	テーマの焦点をしばり、検証できるテーマを設定できている。	テーマを設定できている。	テーマを設定できていない。
	探究の流れ	ノート レポート	条件制御や対照実験、精度などを考慮して、探究計画を立てることができる。	現象の要因を考え、実験の条件などを考慮して探究計画を立てることができる。	計画書を埋めただけの探究計画になってしまっている。
	考察	レポート	データを適切に評価し、その関係を分析するなどして、論理的に結論を導くことができる。	データの分析から妥当な結論を導くことができる。	導いた結論の妥当性が不十分である。
	発表	ポスター 発表	整理された内容のポスター・スライドを効果的な構成・表現を考慮して作成し、十分練習したうえで発表を行っている。	適切な構成・内容のポスター・スライドを作成し、発表を行っている。	ただ、ポスター・スライドを作成し、発表を行っただけである。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・授業やグループでの話しあいの中で意見を出しあい、他者の意見についても調べて理解を深めている。 ・学校外の先生や研究者等のアドバイスを受けながら、探究の方法や内容について議論をし、主体的に探究を進めている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	探究に対する心構え	ノート レポート	授業やグループでの話しあいの中で意見を出しあい、他者の意見についても調べて理解を深めている。	授業やグループでの話しあいの中で、自分の考えを説明している。	与えられた課題にただ取り組んでいるだけである。
	探究活動	ノート レポート 発表	学校外の先生や研究者等のアドバイスを受けながら、探究の方法や内容について議論をし、主体的に探究を進めている。	仲間や先生と探究について議論をし、探究に取り組んでいる。	漠然と探究に取り組んでいる。

令和7年度

シラバス



普通科3年

--

国語		2
地理歴史		10
公民		14
数学		16
理科		22
保健体育		26
外国語(英語)		28
家庭		32
理数		34

入 学 年 度			令 和 5 年 度				備 考	
学 年			1	2	3	計		
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	国語表現、古典探究 履修者は、2,3年 次継続履修
		言語文化	◎2	2			2	
		論理国語	4		2	2	4	
		文学国語	4		2	2	4	
		国語表現	4		★2	★2	★4	
		古典探究	4		★2	★2	★4	
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2	地理探究、日本史 探究履修者は、2,3 年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3	■5	
		歴史総合	◎2	2			2	
		日本史探究	3		■2	■3	■5	
	公 民	公共	◎2		2		2	
		政治・経済	2			2	2	
	数 学	数学Ⅰ	◎3	5			5	3年次の数学Cは、2年次に 理数探究基礎を履修したも のが選択履修
		数学Ⅱ	4		2	2	4	
		数学A	2		2		2	
		数学B	2			2	2	
		数学C	2			★2	★2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2	3年次の生物は、2年次 に生物基礎を履修したも のが履修
		物理基礎	○2		▲2		▲2	
		化学基礎	○2		2		2	
		化学	4			△4	△4	
		生物基礎	○2		▲2		▲2	
		生物	4			△4	△4	
	保健体育	体育	◎7～8	3	2	3	8	
		保健	◎2	1	1		2	
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2	
		美術Ⅰ	○2	□2			□2	
		書道Ⅰ	○2	□2			□2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	5			5	
		英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4	
		論理・表現Ⅰ	2		3		3	
		論理・表現Ⅱ	2			3	3	
	家 庭	家庭総合	◎4		2	2	4	3年次の理数探究は、2年次 に理数探究基礎を履修したも のが選択履修
	情 報	情報Ⅰ	◎2	2			2	
	理 数	理数探究基礎	1		★2		★2	
		理数探究	2～5			★2	★2	
	科 目 単 位 数 計			28	28	29	85	
総探	福山みらい創業塾		◎3～6	2	2		4	
	キャリアプラン					1	1	
合 計			30	30	30	90		
特活	ホ ー ム ル ー ム 活 動		1	1	1	3		
週当たり総時数			31	31	31	93		

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	論理国語		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。 (4) 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図の応じた適切な題材を決めること。								
教 材		使 用 教 科 書 東京書籍 新編論理国語 副 教 材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1	時代をひらく	・ 論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。		一学期中間	○	○	○
		5月			・ 未知の世界に飛び込んでゆく勇気や、本当の豊かさについて思考を深める。					
		6月	2	新しい視点から	・ 体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。		一学期期末	○	○	○
		7月			・ 筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。					
	2 学 期	9月	3	科学と人間	・ 科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深める ・ 人間に対する筆者の考えを捉え、人間の意志や自由について理解を深める。		二学期中間	○	○	○
		10月	4	豊かな認識	・ 評論を読んだ的確に理解し、論じられている物事への認識を深める。 ・ 言葉の働き、また科学的視点の持ち方とその意義などについて理解し、考える。			○	○	○
		11月	5	知のゆくえ	・ 対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。		二学期末	○	○	○
		12月			・ 情報と知識、思考について現代を生きるうえで必要な態度を考える。					
	3 学 期	1月	6	明日を見つめて	・ 具体と抽象に着目して、評論の内容を的確に読み取る。 ・ 例と説明、部分と全体の関係を読み取り、内容を理解し考える。		学年末	○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します、きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう、								

教 科	国語	科 目 名	論理国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができていない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	国語 「文学国語」	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にする。葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
教 材		使 用 教 科 書 大修館書店 新編文学国語 副 教 材 国語必携 パーフェクト演習							
学習の内容	1 学 期	4月 1 心を見つめる	・ 具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・ 文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。			中 間	○	○	○
		5月 2 小説を楽しむ(二)	・ 登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながらよむ。 ・ 登場人物の考え方を捉え、自分の考えと比較しながら考えを広げる。			一 学 期 期 末	○	○	○
		6月 古典の世界 4	・ 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深める。				○	○	○
		7月 4 短歌・俳句に親しむ	・ 形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わう。 ・ 印象的に表現するための言葉や表現を工夫する。				○	○	○
	2 学 期	9月 3 文化を感じる	・ 筆者の考える人を感動させるための方法を考える。 ・ 引用された作品を読み、解釈を深める。			二 学 期 中 間	○	○	○
		10月 5 小説を味わう 古典の世界 5	・ 登場するものたちの性格や心理を読み取る。 ・ 作品のおもしろさと、込められた寓意性を読み取る。 ・ 作品の概要や文体の特徴を知り、文学史上の位置づけを理解する。				○	○	○
		11月	・ 歴史の中で生きた人間の人物像や心情を読み取り、作品の読みを深める。			二 学 期 期 末	○	○	○
		12月 6 名作を読む	・ 登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・ 優れた表現に触れ、読み味わう。				○	○	○
	3 学 期	1月 7 文学を生み出す	・ さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。			卒 業 考 査	○	○	○
		2月 3月							
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。							

教 科	国語	科 目 名	文学国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「国語表現」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。								
教 材		使 用 教 科 書 大修館書店 国語表現 副 教 材								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	言葉で遊ぶ	・様々な言葉遊びを味わい創作意欲を高め、自らの表現力を向上させる。			1 学 期 中 間	○	○	○
			無人島で生き残れ	・グループ活動をととして、合意形成に至る建設的な話し合いと柔軟な発想ができる力を養う。				○	○	○
		5月	日常生活の正しい過ごし方	・「トリセツ」の制作をととして、その特徴を捉え、社会生活に役立つ表現を学ぶ。			1 学 期 期 末	○	○	○
		6月	魅力的なポスターを作ろう	・ポスター作りをととして、その多様な構成要素に着目し、表現の工夫について考える。				○	○	○
			「わが町自慢」のパンフレット作り	・パンフレット作りをととして、様々な表現上の工夫について学び、自らの表現力を高める。				○	○	○
	2 学 期	7月	働く人にインタビュー	・インタビューをととして、話す・聞く・書くといった総合的な国語力を養う。			2 学 期 中 間	○	○	○
			たほいやゲームをしよう	・ゲームをととして言葉の定義に対する意識を高め、語彙力を豊かにし、言葉の感覚を磨く。				○	○	○
		9月	みんなで作ろう国語辞典	・国語辞典の構成要素や特徴を理解し、言葉を観察し、言葉についての意識を高め、感性を豊かにする。			2 学 期 期 末	○	○	○
			「私の虫類図譜」を作ろう	・辻まことの『忠類図譜』を参考に、自分の作品を作り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。				○	○	○
		10月	エッセイを書こう	・読み手を意識しながら表現を工夫して文章を書くことをととして、自分の中から話題を絞り出す訓練をする。				○	○	○
			演説合戦にチャレンジ	・演説合戦をととして、筋道を立てて考える力、わかりやすく説得力のある説明をする力、多くの人にしっかりと語りかける力などを養う。				○	○	○
	3 学 期	11月	こちら悩みごと相談室	・文章から書き手の心理を読み取り、それに対して適切な態度、表現で回答することで、書くことによって伝え合う力を高める。			卒 業	○	○	○
		12月						○	○	○
		1月 2月 3月	開廷！模擬裁判	・模擬裁判をととして、議論や論証の構造を判断する力や、思考の過程や結論を適切に表現する力を養う。				○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ワークシートにしっかりと取りくみましよう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましよう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましよう。								

教 科	国語	科 目 名	国語表現	
-----	----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「古典探究」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		使用教科書 第一学習社 標準古典探究 副 教 材 浜島書店 新訂版最新国語便覧								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	説話(三)	・ 昔話として現在まで継承された話を読み、現実と非現実が入り交じる世界に生きる登場人物の心境を読み取る。 ・ 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。			一 学 期 中 間	○	○	○
		5月	逸話	・ 中国古典の寓話・小話から現代にも通用する教訓を学び、漢文に対する興味を更に深める。				○	○	○
		6月	物語(二)	・ 物語文学の代表作を読み、人物造形や心理描写を丁寧に読み解き、宮廷貴族社会の在り方、物の見方感じ方に触れ、自身の考えを広げたり深めたりする。 ・ 登場人物の行動を読み取る描写を味わうとともに、人物を評価する語り手の視点や判断基準を考え、歴史政治について理解を深める。			一 学 期 期 末	○	○	○
		7月	項羽と劉邦	・ 登場人物の描写を読み解くことを通して、人間の生き方についての考察を深める。				○	○	○
	2 学 期	9月	日記	・ 平安女流日記を読み、内面を綴った心理描写に触れ、自分を客観的に見つけた作者像への理解を深める。			二 学 期 中 間	○	○	○
		10月	諸家の思想	・ 『論語』と並ぶ諸家の古典を読み、中国古代思想について理解を深める。 ・ 自らの主張を効果的に相手に伝えるために、寓話や対句や対比などの構成や展開、表現上の特色について学ぶ。				二 学 期 期 末	○	○
		11月	物語(三)	・ 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。			○		○	○
		12月	名家の文章	・ 簡潔で洗練された表現を味わうとともに、作者が話に託した思いを読み取り、ものの見方や考え方を深める。			○	○	○	
	3 学 期	1月	評論	・ 古典の作品や人物に関する批評を読み、古文を評価する態度や基準について考えを深める。			卒 業	○	○	○
		2月 3月								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) しっかりと活動に参加することが大切です。 (2) 提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3) ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	古典探究
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立福山高等学校		教科 科目名	地理歴史 地理探究	履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点					
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度			
学習の目標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うことを目指す。										
教 材		使用教科書： 二宮書店 地理探究 帝国書院 標準高等地図										
		補助教材： 二宮書店 地理探究ワークブック										
学習の内容	1 学期	4月	イントロダクション	オリエンテーション		1 学期 期末	○	○	○			
		5月 6月 7月	第1編 第4章 人口、村落・都市	①人口を理解する。 ②村落・都市を理解する。			○	○	○			
			第1編 第5章 文化と国家	①生活文化と言語・宗教を理解する。 ②国家とその領域を理解する。			○	○	○			
				9月	第2編 第1章 地域区分		①地域区分を理解する。		2 学期 中間	○	○	○
	10月 11月 12月	第2編 第2章 現代世界の諸地域	①中国と朝鮮半島を理解する。 ②東南アジアと南アジアを理解する。 ③西アジアと中央アジアを理解する。 ④北アフリカとサハラを理解する。 ⑤ヨーロッパとロシアを理解する。 ⑥アングロアメリカを理解する。 ⑦ラテンアメリカを理解する。 ⑧オーストラリアと島嶼国を理解する。		2 学期 期末	○	○	○				
			1月 2月 3月	第3編 現代世界における これからの日本の国 土像		①現代日本に求められる国土像		卒 業		○	○	○
										○	○	○
						○	○		○			
	学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書、地図帳、地理探究ワークブックは必ず持参すること。 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 ・地理探究ワークブックを使って授業を行います。 ・地理探究ワークブックは学期末に回収、点検します。チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。									
	評 価 方 法		(1) 知識・技能…ノート、地理探究ワークブック、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題 (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
	備 考 欄		・定期考査と別に、授業内で単元ごとの小テストを行います。									

教 科	地理歴史	科 目 名	地理探究
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査 小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として系統地理的、地誌的に考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査 小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようと考えることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表 プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等を行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	地理歴史		履修学年	3 学 年 3 単 位	考 査 範 囲	評価の観点					
		科目名	日本史探究		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度			
学習の目標		わが国の歴史の展開を、諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察理解し、歴史的思考力を同時に培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。											
教 材		使用教科書「日本史探究」東京書籍 補助教材「要点マスター 日本史探究整理と演習」東京書籍 「新詳日本史」浜島書店											
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け ・開国と明治維新といった、日本社会の大きな変化について学習する。			1 学 期 中 間	○	○	○				
		5月	第2章 歴史資料と近現代の展望 ・資本主義の発展と、世界の中の近現代日本の状況について学習する。										
		6月	第3章 近現代社会の展望 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 ・殖産興業、文明開化といった、日本社会、生活の近代化について学習する。			1 学 期 期 末	○	○	○				
		7月	2節 国民国家と資本主義の成立 ・立憲国家の成立過程と、資本主義社会の定着について学習する。										
	2 学 期	9月	3節 両大戦間期間の日本 ・政党政治とデモクラシーについて学習する。 ・国際社会における日本の立場と国際化について学習する。			2 学 期 中 間	○	○	○				
			4節 第二次世界大戦と日本 ・昭和恐慌からはじまる、日本の戦時体制について学習する。										
			10月	5節 占領と改革 ・占領と日本国憲法の成立について学習する。			2 学 期 期 末	○	○	○			
				6節 国際社会への復帰と高度経済成長 ・国際社会の復帰と対米協調について学習する。									
		11月		7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 ・高度経済成長と、当時の国際状況について学習する。							○	○	○
				8節 新しい国際秩序と日本の課題 ・激動する世界と21世紀の日本の状況について学習する。									
		12月	第4章 現代の日本の課題の探究 ・伝統文化の継承と日本の国際協力はどうあるべきかを学習する。			○	○	○					
3 学 期	1月	歴史に学ぶ ・地震と日本人について考える。 ・感染症の歴史について学習する。			卒 業	○	○	○					
	2月	・歴史の中の男性と女性の社会的地位について学習する。											
	3月												
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。											
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)											
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。											

教 科	地理歴史	科 目 名	日本史探究
-----	------	-------	-------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しく理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分からなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度 (定期考査)	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取組みに不足があり、期限に迫られて（遅れて）取り組んでいた。	全く取組まなかった。

鹿児島県立福山高等学校 普通科		教科 科目名	公民 政治・経済	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
学習の目標		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
教 材		教科書「政治・経済」東京書籍 『政治・経済資料2024』東京法令出版 補助教材『要点マスター政治・経済 整理と演習』東京書籍								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原理について理解する			1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	2節 日本国憲法の特徴について理解する 3節 日本の政治機構のしくみについて理解する				○	○	○	
		6月	4節 現代政治の特質と課題について考察する				○	○	○	
		第2章 現代日本の経済 1節 資本主義経済の成立と発展について理解する			1 学 期 期 末		○	○	○	
		7月	2節 現代経済のしくみについて理解する 3節 日本経済の発展について理解し現状を考察する				○	○	○	
							○	○	○	
	2 学 期	9月	4節 福祉社会と日本経済の課題を考察する 第3章 現代日本の諸課題 少子高齢化、地域活性化、働き方、中小企業の課題等について考察する			2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみについて理解する 2節 複雑化する国際政治と日本の政治のあり方を考察する				○	○	○	
		11月	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済について理解する				2 学 期 期 末	○	○	○
		12月	2節 世界経済の現状を理解し課題を考察する			○		○	○	
		3 学 期	1月	第3章 国際社会の諸課題 国際社会の諸課題を理解し、どのように解決するか考察する			卒 業 考 査	○	○	○
	2月									
	3月									
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に關係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※考査前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。								

教 科	公 民	科 目 名	政治・経済
-----	-----	-------	-------

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・ 公民的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・ 公民的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	取り組みが良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取り組みに不足があり、期限に迫られて（遅れて）取り組んでいた。	全く取り組んでいなかった。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学Ⅱ	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、事象を論的に考察する力、簡潔・明瞭・論理的に表現する力を養う。数学の良さを認識し考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使 用 教 科 書 東京書籍「新数学Ⅱ」							
学 習 の 内 容	1 学 期	4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数				中 間 考 査			
		4月 整数の指数 累乗根 分数の指数	・指数の範囲を整数全体に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。さらに、分数から実数全体に拡張する。		○		○	○	
		5月 指数関数とそのグラフ 指数関数の利用	・指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかくことができる。 ・指数関数の大小比較や指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ・身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。		○		○	○	
		2節 対数関数 対数・対数の性質 対数関数とそのグラフ	・対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。また、対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。 ・対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。		○	○	○		
		6月 常用対数	・常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを用いて整数の累乗の桁数を求めることができる。		○				
		2 学 期	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数				中 間 考 査		
	7月 平均変化率・微分係数 導関数・導関数の計算		・微分係数を定義により求める。 ・導関数を利用して微分係数を求める。		○	○		○	
	9月 接線		・曲線状の点における接線の方程式を求める。		○				
	2節 導関数の応用				期 末 考 査	○	○	○	
	10月 関数の増加・減少 関数の極大・極小		・導関数の符号を利用して、関数の増減を調べる。 ・極大、極小の意味を理解し、極大値と極小値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。			○			
	11月 関数の最大・最小		・ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。また、それを利用して身近な問題を解決できる。			○	○	○	
	3 学 期	3節 積分 12月 不定積分				卒 業 考 査	○		
		1月 定積分 面積 課題学習	・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		○		○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)板書事項をノートにとり、自分な (2)授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3)授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5)授業を振り返り、次回へいかしましょう。						
評 価 方 法		(1)知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2)思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3)主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄									

教 科	数学	科 目 名	数学Ⅱ
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学の良さを認識し、数学を活用使用としている。 ・自分の考えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返り ノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学B		履修学年 単位数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付ける。日常の事象や社会の現象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返り考察する力を養う。数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教材		使用教科書 東書 数学B Essence								
学習の内容	1 学 期	4月	1章 数列 ・数列と一般項 ・等差数列,等比数列	数列の表し方や一般項の意味を理解し、数列の各項や数列の一般項を求めることができる。 等差数列・等比数列について理解し、その一般項や和を求めることができる。また、いろいろな自然数の和の考察に等差数列の和の公式を活用することができる。		1 学 期 中 間	○ ○	○	○	
		5月	・いろいろな数列	記号Σを用いた和の表し方やΣnの性質を理解し、自然数の和の公式や自然数の2乗の和の公式を利用して、いろいろな数列の和を求めることができる。		1 学 期 末	○	○	○	
		6月	・階差数列	階差数列から本の数列の一般項を求めることや、分数で表された数列の和を求めることができる。			○	○	○	
		7月	・少し複雑な数列	数列の和から一般項を求めることや、分数で表された数列の和を求めることができる。			○	○	○	
	2 学 期	9月	・漸化式、数学的帰納法 2章 統計的な推測 ・標本調査	漸化式、数学的帰納法について理解し、事象を表すことや用いることができる。 標本調査の考え方について理解を深める。		2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	・確率変数と確率分布 ・確率変数の平均、分散、標準偏差	確率変動と確率分布について理解し確率分布を求めることができる。 確率変数の平均を理解し、確率分布からその確率偏すの平均を求めることができる。分散及び標準偏差を理解し、確率分布からそれらを求めることができる。			○ ○	○	○	
		11月	・二項分布 ・連続した値をとる確率偏す連の分布	二項分布を理解し、二項分布に従う確率変数の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 確率密度関数から確率を求めることができる。		2 学 期 末	○ ○	○	○	
		12月	・正規分布 (二項分布の正規分布による近似) ・標本平均の分布 ・母平均の区間推定	正規分布や標準正規分布を理解し正規分布表を用いて確率を求めることができる。正規分布で近似することで二項分布の確率を求めることができる。 標本平均の分布と母集団の分布の関係について理解している。 母平均の区間推定の方法を理解し、母平均に対する信頼区間を求めることができる。			○ ○	○	○	
		1月	・統計的仮説検定	正規分布を用いた仮説検定をの方法を理解し、主張の妥当性について、仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察することができる。			学 年 末	○	○	○
		2月	3章 数学と社会生活 ・およその数量を推定する ・変動の激しいデータを扱う	実際に調査することが難しい数量をフェルミ推定を使って推定することができる。 変動の激しいデータの長期的な傾向を移動平均のグラフから読み取ることができる。		○ ○		○	○	
	3月	・散布図に表したデータを関数として見る ・最終的な状態を予測する ・区域の境界線を定める	分布を散布図で表し、近似曲線をかいてその傾向を調べることができる。 互いに影響し合う2つの量が時間と共に変化する様子について結果を予測することができる。 ポロノイ図を理解し、用いて平面上に区域の境界線を定めることができる。		○ ○	○		○		
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)板書事項をノートにとり、自分なりの補足等してまとめましょう。 (2)授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3)授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5)授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評価方法		(1)知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2)思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3)主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	数学	科 目 名	数学B
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ, 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返り ノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	数学 数学C		履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、事象を論的に考察する力、簡潔・明瞭・論理的に表現する力を養う。数学の良さを認識し考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使 用 教 科 書 実教出版「新編数学C」								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1章 ベクトル 平面上のベクトル ・ベクトルとその意味	・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示及び内積その基本的な性質について理解できるようにする。 ・ベクトルの演算法則を考察できるようにする。		1 学 期 中 間	○	○		
		5月	・ベクトルの演算、成分				○	○		
		6月	・ベクトルの内積			1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月	ベクトルの応用 ・位置ベクトル	・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多目的に考察したり出来るようにする。		○		○		
		9～10月	・ベクトル方程式			○		○		
	2 学 期	11月	空間ベクトル ・空間の座標、ベクトル ・内積、位置ベクトルと空間の図形	・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張出来ることを理解できるようにする。 ・ベクトルやその内積などの基本的な性質を用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多目的に考察したり出来るようにする。		2 学 期 期 末	○	○		
		12月	2章 複素数平面 ・複素数平面、極形式	・複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにする。			○	○	○	
	3 学 期	1月	・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形 3章 平面上の曲線 ・二次曲線 ・媒介変数表示と極座標	・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解するとともに、放物線、楕円、双曲線を相互に関連づけて捉え、考察できるようにする。		卒 業	○	○		
							○		○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりの補足等してまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	数学	科 目 名	数学C
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学の良さを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の考えが出るまで粘り強く考え、根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	理科		履修学年	3 学 年 4 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「化学」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		気体、液体、固体の性質を探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質、化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡を探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。無機物質や有機化合物、高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。								
教 材		使用教科書 数研出版 新編化学 副 教 材 浜島書店 新インプレス化学ノート								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	物質の状態	・物質の三態(気体・液体・固体)について学習する。 (実験 ボイルの法則)			1 学 期 期 末	○		○
		5月	化学反応とエネルギー	・化学結合について学習する。(実験 分子モデルの作成)				○	○	○
				・化学反応と熱、光について学習する。 (実験 発熱反応と吸熱反応)				○	○	○
				・電池と電気分解について学習する。				○		○
	7月	化学反応の速さと平衡	・化学反応の速さについて学習する。				○		○	
	2 学 期	9月		・化学平衡や平衡の移動について学習する。			2 学 期 中 間	○		○
		10月	無機物質	・非金属元素の単体と化合物の性質を学習する。 (実験 水素やアンモニアを発生させよう)				○	○	○
		11月		・典型金属元素の単体と化合物の性質を学習する。				○		○
				・遷移元素の単体と化合物の性質を学習する。 (実験 アルカリ土類金属の性質を調べよう) (実験 アルミニウムの性質を調べよう)				○	○	○
	12月	有機化合物	・有機化合物の性質を学習する。 (実験 有機化合物の分離)				○	○	○	
3 学 期	1月	高分子化合物	・高分子化合物の性質を学習する。 (実験 高分子化合物の合成)			卒 業 考 査	○		○	
					○		○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	化学
-----	-----	-------	----

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を化学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを化学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	3 学 年 4 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「生物」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		生物や生物現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力や態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
教 材		使 用 教 科 書 : 啓林館 生物 副 教 材 : 啓林館 生物の基本マスター								
学 習 の 内 容	1 学期	4月	生物の進化 最初の生物と初期の生物進化について学習する。			1 学期 期 末	○		○	
		5月	遺伝子の変化と進化のしくみ				○	○	○	
			遺伝子の組み合わせの変化について学習する。				○		○	
			進化のしくみについて学習する。				○		○	
		6月	生物の系統と進化				○	○	○	
			生物の系と進化について学習する。 人類の系統と進化について学習する。				○		○	
		7月	細胞と分子 細胞を構成する物質、生体膜の働きと細胞				○		○	
	2 学期	9月	生命現象とタンパク質			2 学期 中 間	○		○	
			タンパク質の構造と機能について学習する。 酵素として働くタンパク質について学習する。 物質の輸送や情報伝達に働くタンパク質について学習する。				○	○	○	
		10月	代謝 代謝				○		○	
			呼吸と発酵のしくみについて学習する。			○	○	○		
		11月	遺伝情報の発現と発生			○	○	○		
		遺伝情報とその発現について学習する。			○		○			
	12月	発生と遺伝子の発現について学習する。				○	○	○		
3 学期	生物の環境応答					卒 業 考 査	○		○	
	3学期	動物の反応と植物の環境応答について学習する。 生態と環境 生態系と環境の保全について学習する。			○		○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	生 物	
-----	-----	-------	-----	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現している	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	3 学年 3 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4 月	オリエンテーション ・授業の心得、体育館施設利用の説明				実 施 し ま せ ん			
			集団行動	・集団行動の基本的動作確認					○	
			第2ラジオ体操	・第2ラジオ体操の動きの確認				○		○
		5 月	体づくり運動	・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、 健康の保持増進や体力の向上を目指す学習				○	○	○
	2 学 期	6 月	球技Ⅰ・武道 選択	・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習				○	○	○
		7 月	体育理論	・豊かなスポーツライフの設計 (①～③)				○	○	○
	3 学 期	9 月	球技Ⅱ・武道 選択	・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習 ・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習				○	○	○
		10 月	陸上競技	・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける				○	○	○
		11 月	体育理論	・豊かなスポーツライフの設計 (④～⑥)				○	○	○
		12 月	球技Ⅲ	・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習				○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。 ・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現 (学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度 (授業態度、課題提出、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて (1) ～ (3) に A, B, C の評価を行う A (十分満足できる) B (おおむね満足できる) C (努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体 育
-----	------	-------	-----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決できていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	外国語(英語)		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	英語コミュニケーションⅡ		単 位 数			知 識	思 考 判 断 技 能	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、聞き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。								
教 材		使用教科書<開隆堂>Amity English Communication Ⅱ 副教材<開隆堂> Amity English Communication Ⅱ ワークブック 副教材<旺文社> 英単語ターゲット1200【改訂版】								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月～5月	Lesson 7 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】 ・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。・AIロボットと人間の関係について話し合う。 ・接続詞、前置詞について学習する。				一学期中間考査	○	○	
		5月～6月	Lesson8 Mystery of Colors 【色の不思議】 ・写真を見て、自分の考えを説明する。・色の持つ力について話し合う。 ・現在完了・現在完了進行形について学習する。				一学期期末考査	○	○	
	2 学 期	6月～7月	Lesson 9 Street Performers 【ストリートパフォーマー】 ・自分の好きなミュージシャンや曲について紹介する。・夢をかなえるために必要なことについて話し合う。 ・分詞の形容詞的用法・分詞構文について学習する。				二学期中間考査	○	○	
		9月～10月	Lesson10 The culture of Selfies 【自撮り文化】 ・自分の似顔絵を描いて自己紹介をする。・自分を表現する方法について話し合う。 ・関係代名詞について学習する。				二学期期末考査	○	○	
3 学 期	10月～11月	Lesson11 Finland【フィンランド】 ・フィンランドの様々なものについて、魅力を紹介する。・フィンランドでやってみたいことについて話し合う。 ・関係副詞について学習する。				○		○		
	12月	Lesson12 In Order to Live a Happy Life【幸せな人生にするために】 ・別の人・生き物になったつもりで、気持ちを表現する。自分にとっての幸せについて、話し合う。 ・仮定法について学習する。				○	○			
学習の方法 予習・復習 ノート等		1月 Reading Cremona 既習文法や語彙を活用して、ストーリーを理解する。音楽の効果や影響について、自分の考えや気持ちを他者に伝える。					卒業考査	○	○	
評 価 方 法		(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。 (1) 知識・技能(定期考査・小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト等) (2) 思考・判断・表現(定期考査・ノート・ワークブック・英作文/レポート・発表/プレゼンテーション・パフォーマンステスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(ノート・振り返りシート・課題/提出物・発表・授業態度・パフォーマンステスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)に:A, B, Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ	
-----	---------	-------	--------------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができている。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表 プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	外国語(英語) 論理・表現Ⅱ		履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識	思 考 ・ 判 断	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・話すこと[やり取り]…日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 ・話すこと[発表]…日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 ・書くこと…日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。								
教材		使用教科書<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅱ 副教材<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅱワークブック 副教材<旺文社>英単語ターゲット1200【改訂版】								
学習の内容	1 学 期	4月	Lesson1	現在形を学習し、現在の部活動や興味・関心があることを表現する。		1 学 期 中 間 考 査	○	○	○	
			Lesson2	過去形を学習し、中学校時代の部活動について、積極的に発表する。			○	○	○	
		5月	Action Part 1	昨年頑張ったことや今年の目標を英語で伝えるようにする。		1 学 期 期 末 考 査		○	○	
			Lesson3	進行形を学習し、今、興味があることについて表現する。			○	○	○	
		6月	Lesson4	未来を表す表現を学習し、修学旅行の予定について発表する。		2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	
			Lesson5	助動詞(can / may)の用法を学習し、級友にアドバイスができるようにする。			○	○	○	
		7月	Lesson6	助動詞(must / should)の用法を学習し、SNSの利用の仕方のルールについて対話する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
			Action Part 2	留学生に向けて、自分のことを英語で伝えるようにする。				○	○	
	2 学 期	9月	Lesson7	完了形(完了・結果、経験)の用法を学習し、聞いたことがある話やうわさについて対話する。		卒 業 考 査	○	○	○	
			Lesson8	完了形(継続)の用法を学習し、自分が続けている習慣について対話する。			○	○	○	
		10月	Lesson9	受動態の用法を学習し、自分が住んでいる市町村にある建築物について発表する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
			Lesson10	比較形・最上級を学習し、自分が住んでいる都道府県とほかの都道府県を比べて紹介する。			○	○	○	
			Lesson11	同等比較・倍数比較を学習し、投票率を示した統計表をもとに、自分の意見を発表する。			○	○	○	
			Lesson12	動名詞の用法を学習し、趣味や好きなことについて対話する。			○	○	○	
		11月	Lesson13	to不定詞の用法(名詞的用法)を学習し、おすすめの歌や映画などの紹介文を書く。		卒 業 考 査	○	○	○	
			Action Part 3	睡眠時間・歩数・インターネット利用時間の3つの生活習慣について、英語で自分のことを発表する。				○	○	
			Lesson14	to不定詞の用法(副詞的用法・形容詞的用法)を学習し、最近時間がなくてできなかったことを発表する。			○	○	○	
			Lesson15	分詞(現在分詞・過去分詞)の用法を学習し、好きな本や映画などについて紹介する。			○	○	○	
		12	Lesson16	関係代名詞(who・whose・which・that)の用法を学習し、動物などの特徴をもとにクイズを出す。		卒 業 考 査	○	○	○	
			Lesson17	関係代名詞(what・非制限用法)の用法を学習し、最近感動したことについて対話する。			○	○	○	
Action Part 4	自分たちがしたいと思うボランティアについて、英語でポスターを作り、発表する。			○	○					
Lesson18	関係副詞(when・where・why・how)の用法を学習し、自分の習慣について、いつどのようにするかを対話する。		○	○	○					
3 学 期	1月	Lesson19	仮定法(仮定法過去・仮定法過去完了)の用法を学習し、もし校長先生になったらしたいことについて、対話する。		卒 業 考 査	○	○	○		
		Lesson20	接続詞の用法を学習し、環境のためにすべきだと思うことについて自分の考えを発表する。			○	○	○		
		Action Part 5	世界の食文化を紹介しようを通して、食文化・食習慣を伝え合う。			○	○	○		
		文法のまとめ	①～⑥			○				
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2)必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3)授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4)授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5)週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。								
評価方法		(1)知識・技能(定期考査・小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト等) (2)思考・判断・表現(定期考査・ノート・ワークブック・英作文/レポート・発表/プレゼンテーション・パフォーマンステスト等) (3)主体的に学習に取り組む態度(ノート・振り返りシート・課題/提出物・発表・授業態度・パフォーマンステスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄										

教 科	外国語(英語)	科 目 名	論理・表現Ⅱ
-----	---------	-------	--------

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できている。間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもなされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができていない。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができていない。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・学んだ内容を活用して、積極的に発表しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りができている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期限内に完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲を欠いている。
授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。	

鹿児島県立 福山高等学校 普通科・商業科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					知 識	思 考・ 判 断	主 体的 に学 習に 取り組 む態 度
教 材		使 用 教 科 書： 大修館書店〔家総705〕 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう」					技 能	表 現	
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第4章 子どもの生	・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。		一 学 期 期 末	○	○	○
		5月	ト	・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。 ・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。					
		6月	第10章 衣生活のマネジメント	・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深める。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解する。 ・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付ける。 ・よりよい住生活の創造について考え、工夫する。			○	○	○
		7月							
	2 学 期	9月				二 学 期 期 末			
		10月	第3章 家族・家庭生活のマネジメント	・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。			○	○	○
		11月	第5章 高齢期の生活のマネジメント	・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付ける。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。 ・家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、適切な支援の在り方や関わり方を工夫する。			○	○	○
			第6章 共生社会をつくる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・家庭と地域との関わりについて理解する。 ・様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。 ・共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫する。			○	○	○
			12月	第11章 住生活のマネジメント	・住生活を取り巻く課題、住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深める。 ・各ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。 ・よりよい住生活の創造について考え、工夫する。		学 年 末	○	○
	3 学 期	1月							
			第7章 持続可能な社会をつくる	・生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会への参画意義について理解を深め、主体的に行動できるよう、ライフスタイルを工夫する。			○	○	○
学習の方法		(1)説明事項や板書は、必ずワークシートに丁寧に記入しまとめましょう。適宜、提出を求めます。							
予習・復習 ノート等		(2)発表や実習などの活動には、積極的に参加しましょう。 (3)発問に対し意欲的に考え、聞き手に分かりやすく伝わるように努めましょう。 (4)小単元毎に授業の振り返りを行い、次の授業へ生かします。 (5)提出物は、必ず期限内に提出しましょう。							
評価方法		(1) 知識・技能(定期考査、小テスト、実習・実験等) (2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシート、レポート作成、発表、実習・実験、作品製作等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業や課題に取り組む態度、振り返りシートの記述、教師による行動観察、授業中の発言、自己評価や相対評価等の状況等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄		・地域の認定こども園へ3学期に半日を使い訪問予定です。							

教 科	家 庭	科 目 名	家庭総合
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している	授業の内容をおおむね理解している	あまり理解していない
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している	学んだ知識や技能を用い記述している	学んだ知識や技能を用い記述できない
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定できていない
	解決方法を検討し，計画，立案する		生活課題について多角的に捉え，実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫できていない
	実践した結果を評価・改善する		問題点や改善策を具体的に記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善していない
	論理的に表現する		考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している	考察し表現している	考察し表現できていない
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ち，その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする	・ワークシートの記述 ・自己評価，相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組んでいる	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組もうとしている	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組むことができていない
	自らの学習を調整しようとする		学習内容について具体的に記述があり，次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり，振り返りができている	見通しが持てず，感想もあまり記述できなかった
	実践しようとする態度	・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え，聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている	発問に対して意欲的に考え，発言をしている	発問に対して考え，自分の意見を持とうとしない
		・教師による行動観察	学習に主体的に参加し，理解につなげている	学習に参加し，理解につなげようとしている	学習への取り組みが物足りず，理解しようという姿勢が乏しい

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	理数 「理数探究」	履修学年 単位数	3 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点								
学習の目標		理数探究基礎で学んだ知識や技能を活かし、課題設定を行い、設定した課題に対して科学的・数学的手法を用いて、解決する力を養う。また、解決した手法、結果等を他者へ発信する力を養う。問題発見、問題解決の過程を通して主体的に学び、論理的、創造的、自発的な学習態度を育てる。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度						
教 材		使 用 教 科 書 特になし 副 教 材 特になし				考 査 は 行 い ま せ ん	○	○	○						
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	ガイダンス	1年間の計画、課題設定等を行う 予備調査・予備実験を行う						○	○	○			
		5月	計画	課題の仮説や計画を立てる											
		6月	研究	自らの課題の探究活動を行う											
		7月	研究	反省と計画の修正を行う											
	2 学 期	9月	研究										○	○	○
		10月	発表準備	文化祭で発表を行う											
		11月	研究	追加の研究をする											
		12月	最終発表会	最終発表会を行う											
	3 学 期	1月	論文作成	論文を作成する		○	○	○							
			論文提出						○	○	○				
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 普段から疑問に思うことをメモしておきましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。													
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) 到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)													
備 考 欄															

教 科	理数	科 目 名	理数探究
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 文献やデータベースの調査	実験ノート レポート	実験データや参考文献を分析しやすいよう工夫して処理できる	実験データ等を正しく記録することができる	実験データ等を正しく記録することができない
	(問題解決) 実験・観察の手法	実験ノート レポート	研究の基礎となる手法に加え、正確な測定ができる	研究の基礎となる手法が正しく身についている	研究の基礎となる手法が正しく身についていない
	(発表・討論) プレゼンの技能	発表の様子	適切な声量で、スライドだけでなく、聴衆を見て、発表できる	適切な声量ではあるが、ときどき原稿を見ながら発表している	声が小さく、原稿のみを見て発表している
思考・判断・表現	到達目標	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 仮説の設定	実験ノート レポート	論理的に考えて、仮説が立てられている	論理的ではないが仮説が立てられている	仮説が立てられない
	(問題解決) 実験計画 実験条件	実験ノート レポート	計画が具体的に示され、論理的に適切な実験条件で実験できる	計画が示され、適切な実験条件で実験できる	計画も実験条件も示すことができない
	(問題解決) 実験結果の考察	実験ノート レポート	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから論理的な考察ができる	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから考察ができる	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから適切な考察ができない
	(発表・討論) スライドのわかりやすさ	作成の様子 スライド	グラフや表、写真を用いており、全体の流れも適切である	グラフや表、写真のスライドもあるが、文字が多く、全体の流れがつかみにくい	グラフや表、写真のスライドもあるが、文字が多く分かりにくい
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 課題発見	実験ノート レポート	自ら課題を発見し、検証可能な現象を考え、適切な課題を設定することができる	過去の実験結果などから、疑問点を見つけ適切な課題を設定することができる	新たな疑問点を考えようとしていない
	(問題解決) 結論をまとめる	実験ノート レポート	実験データから論理的な結論を導きだし、自分なりにまとめることができる	実験データから論理的な結論を導きだし、自分なりにまとめることができる	実験データから論理的な結論を導きだせるが、まとめることができない
	(発表・討論) スピーチ力 討論	発表の様子	強調したいことを相手に伝え、お互いの意見を理解し、討論できる	強調したいことを相手に伝え、お互いの意見を理解することができる	自分の意見を伝えられず、相手の意見も理解できない

